

中新田遺跡（第2次）発掘調査報告

—三重県伊勢市津村町所在—

2007（平成19）年3月

三重県埋蔵文化財センター



調査区全景（東から）

序

三重県南部最大の河川である宮川は、大台ヶ原に端を発し流域の盆地を潤して伊勢湾に流れ込みます。この宮川は、水量豊かな清流で、流域には古くから人々の生活の痕跡が残されています。中新田遺跡は、この宮川中流の右岸にある津村町に位置する遺跡です。近くには伊勢神宮の祭主館である「藤波館」や「岩出館」があったと想定されている遺跡もあり、この地域が古くから重要な位置を占めていたことがうかがえます。

今回の発掘調査は、主要地方道伊勢南島線の整備に伴って行われたもので、開発に伴う緊急調査です。我々が現代社会をより豊かに暮らすためには、開発は必要不可欠なものです。その一方で地域の歴史を語る遺跡が失われていくに当たり、これらを記録保存し、後世に伝えていくのも我々の使命であると考えております。今後は、こうして蓄積された成果をより多くの人々に有効に活用されるように努力していきたいと考えております。

なお、最後になりましたが、調査にあたりましては地元の方々をはじめ、伊勢市教育委員会、三重県県土整備部の方々には多大なるご理解とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 吉水 康夫

例 言

1. 本書は、三重県伊勢市津村町字中新田に所在する、中新田遺跡（第2次調査）の発掘調査報告書である。
2. 調査の原因は、平成17年度の主要地方道伊勢南島線道路改築事業である。当該調査にかかる費用は、三重県県土整備部が負担した。
3. 当該調査及び整理体制は下記のとおりである。

調査主体	三重県教育委員会
調査担当	三重県埋蔵文化財センター
	調査研究Ⅰグループ 技師 西村美幸・主幹 木本勝己
整理担当	三重県埋蔵文化財センター
	調査研究Ⅰグループ・情報普及グループ・支援研究グループ

(平成17年度の呼称による)

発掘調査委託先	国際航業株式会社
---------	----------
4. 調査期間は下記のとおりである。

平成17年9月20日 ～ 平成17年11月9日 1,381㎡
5. 調査にあたっては、地元の方々、伊勢市教育委員会、三重県県土整備部道路整備室、及び伊勢建設部からのご協力を得た。
6. 報告書の執筆、全体の編集および遺物写真撮影は西村が行なった。
7. 本書で報告した記録類および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

凡 例

〔地図類〕

- 1 本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1/25,000地形図、伊勢市発行の地図である。伊勢市発行の地図は、国土調査法の日本測地系による座標第IV系（旧国土地標）で表現されているものであるため、平成14年4月から施行されている世界測地系・測地成果2000には対応していない。
- 2 挿図の方位は、世界測地系・測地成果2000による座標北で表している。なお、磁針方位は西偏約6°30'である。（平成10年国土地理院）

〔遺構類〕

- 3 土層図の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』（第9版1989年）を用いた。
- 4 本書で使用した遺構表示略号は下記のとおりである。
SA：塀 SB：掘立柱建物 SK：土坑 SD：溝 SE：井戸 Pit：P：柱穴・小穴
- 5 遺構の「掘形」とは、例えば当初柱を据えるため掘削した穴のラインを指す。「上端（うわば）」は遺構検出面のラインを、「下端（したば）」は遺構掘削後の底面のラインを指す。

〔遺物類〕

- 6 当報告での遺物実測図類は実物の1/4を基本としている。
- 7 遺物実測図は、第1次調査及び第2次調査出土遺物に分け、それぞれ通番としている。
- 8 当報告書での用語は、「つき」は「杯」、「わん」は「碗」に統一している。
- 9 遺物観察表は、以下の要領で記載している。
番号 …………… 挿図掲載番号である。
実測番号 …………… 実測段階の登録番号である。
様・質 …………… 「土師器」「陶器」などの区分をここに示した。
器種など …………… 遺物の器種を示した。
地区 …………… 調査区別の別を示した。「1」及び「2」は、それぞれ第1次調査、第2次調査を示す。
グリッド …………… 調査時に設定したグリッド名を記した。
遺構・層名等 …………… 遺物の出土した遺構や層名などを記した。
法量 (cm) …………… 遺物の法量を示す。(口)は口縁部径、(台)は高台部径、(頸)は頸部径、(高)は器高を示す。なお、数値はそれぞれの部位の最大径であり、内法や、実測段階での接地点ではない。
調整・技法の特徴 …… 主な特徴を示した。「A→B」はAの後にBが施されたことを示す。
胎土 …………… 小石などの混和材を除いた素地の緻密さを「密～粗」で区分した。
色調 …………… その遺物の代表となる色調を記載した。表記は前掲『新版標準土色帖』に掲げる。
残存度 …………… その部位を12分割した際の残存度を示した。6/12は約半分を示す。
特記事項 …………… 遺物の特徴となる事項を記した。

〔写真図版〕

- 10 写真図版は、遺構・遺物毎でまとめた。
- 11 挿図と写真図版の遺物番号は対応している。
- 12 遺物の写真図版は、特に断らない限り縮尺不同である。

本文目次

第1章 前 言	
第1節 調査に至る経緯と経過	1
第2節 調査の方法	1
第2章 位置と環境	2
第3章 遺 構	
第1節 基本層序	9
第2節 第1次調査との関係	9
第3節 遺構の概要	9
第4章 遺 物	
第1節 第2次調査出土遺物	17
第2節 第1次調査出土遺物	18
第5章 調査のまとめ	
第1節 中新田遺跡出土の土器について	32
第2節 南東隅に土坑をもつ建物について	34
第3節 中新田遺跡の位置づけ	34

図 版 目 次

第1図 遺跡位置図	3
第2図 遺跡地形図	4
第3図 調査区位置図	5
第4図 第1次調査遺構配置図	5
第5図 土層断面図	6
第6図 遺構平面図	7-8
第7図 S B55・56実測図	12
第8図 S K37・38実測図	13
第9図 S B57実測図	14
第10図 S K40・39・46・54実測図	15
第11図 S B58～61実測図	16
第12図 第2次調査出土遺物実測図(1)	20
第13図 第2次調査出土遺物実測図(2)	21
第14図 第2次調査出土遺物実測図(3)	22
第15図 第1次調査出土遺物実測図(1)	23
第16図 第1次調査出土遺物実測図(2)	24
第17図 南東隅土坑をもつ掘立柱建物模式図	35
第18図 中新田遺跡の遺構配置図	35
第19図 明治時代の地図	36

表目次

第1表	遺構一覧表	11
第2表	掘立柱建物観察表	11
第3表	第2次調査出土遺物観察表(1)	25
第4表	第2次調査出土遺物観察表(2)	26
第5表	第2次調査出土遺物観察表(3)	27
第6表	第2次調査出土遺物観察表(4)	28
第7表	第1次調査出土遺物観察表(1)	29
第8表	第1次調査出土遺物観察表(2)	30
第9表	第1次調査出土遺物観察表(3)	31
第10表	遺物カウント表	32
第11表	遺物カウント表(個別データ)	33

写真図版目次

巻頭カラー	調査区全景	
図版1	調査区全景	39
図版2	A地区全景、B地区全景	40
図版3	A地区中心部、B地区中心部	41
図版4	S B55・56、S B57・58	42
図版5	S B60・S D49、S B61	43
図版6	S K37・38集石除去前、S K37・38完掘後	44
図版7	S K40、S K39	45
図版8	作業風景、現地説明会風景	46
図版9	調査前風景・工事中風景	47
図版10	第2次調査出土遺物(1)	48
図版11	第2次調査出土遺物(2)	49
図版12	第1次調査出土遺物	50

第1章 前言

第1節 調査に至る経緯と経過

1 調査に至る経緯

中新田遺跡は、昭和56年3月刊行の『三重県伊勢市遺跡分布地図』（伊勢市教育委員会）により240番として登録されている遺跡である。当遺跡は、昭和56年度に実施された県営ほ場整備事業に先がけて、掘削される部分2,000㎡を対象として11月24日～12月25日に発掘調査が行なわれた。この調査(以下「第1次調査」とする)では、A～Dの4地区の調査が行なわれ、鎌倉時代後期の掘立柱建物8棟、柱列2列、井戸1基などの遺構とともに、土師器鍋・皿、山茶碗、青磁などの遺物が出土している¹⁾。

中新田遺跡とその南に位置する西垣外遺跡を縦断する主要地方道伊勢南島線の道路改築事業の計画書が提出されたのは平成16年であった。この後、県教育委員会および三重県埋蔵文化財センターでは、遺跡の保存を巡って県伊勢建設部と協議を重ねたが、ルートの変更が困難であったため、発掘調査後に記録保存として対応することに合意した。

これを受けて、三重県埋蔵文化財センターでは、平成17年8月2日と29日に事業対象地5,120㎡の範

囲確認調査を実施した。その結果、西垣外遺跡では事業地内には遺構・遺物が確認されず、遺跡縁辺部であることが判明した。中新田遺跡では、第1次調査のC・D地区を含む1,818㎡に中世を中心とした時期の遺構が広がっていることを確認し、要調査範囲を確定した。

2 調査経過

本調査は、国際航業株式会社に調査委託を行い、平成17年9月20日より開始し、11月9日に終了した。最終的な調査面積は、1,381㎡であった。

3 文化財保護法にかかる諸通知

文化財保護法等にかかる諸通知は、以下により県教育長宛に行っている。

- ・文化財保護法に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項（県教育長宛）
平成17年9月16日付け伊建第395号
- ・文化財保護法第99条の第1項（県教育長宛）
平成17年9月15日 教埋第216号
- ・遺失物法による文化財発見・届出通知（伊勢警察署長宛）
平成17年12月7日 教埋第2-36号

第2節

調査の方法

調査区の設定 今回の中新田遺跡（第2次）調査では、調査対象区域が農道で分断されていた。そのため、農道より北側を2-A地区、南側を2-B地区として調査を行なった。

調査範囲（調査区）内の任意の2点を結ぶ線を基準線とし、それにしたがって4m×4mの方眼（グリッド）を設定し、調査の基本単位とした。グリッド名の表記は、北西隅を表示の原点とした。遺構実測の段階で、国土座標（新座標）を付与し、調査区全体の位置関係を座標で把握できるようにした。

表土除去 包含層より上位は、重機（バックホー）による表土除去を実施した。

検出・掘削 ほ場整備で削平をうけたためか、2-A地区では南西隅でしか遺物包含層が確認できず、

その他の場所では表土直下で遺構検出面となった。表土除去後、人力による遺物包含層掘削を実施し、その後、遺構検出・遺構掘削を行った。

遺構略図 遺構検出時等、遺構が確認された場合には、グリッド単位で1/40の遺構略図を記録した。ここには、土質・切り合いを記したほか、遺物取り上げにおける遺構番号の台帳としても使用した。

遺構番号の付与 遺構番号付与は、柱穴及び小穴以外は遺構種別を超えた通し番号とした。ただし、第1次調査で1～21まで使用されていたため、今回の調査では重複を避けるため31番からスタートした。調査後の整理によって、遺構名称が変化しているものもあるが、遺構一覧表に旧名称を併記した。

実測 調査区土層は1/20、遺物出土状況や個別遺構の実測図は1/10で実測を行った。調査区全体の遺構実測も手描きとし、この場合は1/20作図とした。

遺構写真撮影 基本的に4×5インチ判の白黒ネガ・カラーリバーサルで撮影し、補助・メモに6×9ブルーニー判と35mm判の白黒ネガおよびカラーリバーサルも使用した。

遺物写真撮影 報告書掲載遺物から任意に選択し、基本的にブルーニー判白黒ネガで撮影した。集合写真などは4×5インチ判白黒ネガも使用している。[注]

- ① 新田洋「中新田遺跡」『昭和56年度県営園藝整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1982年

第2章 位置と環境

三重県南部の南勢地域を流れる宮川は、大台山系に端を発し、途中多くの河川と合流し、流域に多くの段丘や氾濫原を形成して伊勢湾に注ぎ込む、延長約90km、流域面積920km²の河川である。

中新田遺跡(1)は、この宮川中流域右岸の中段丘上に位置する。遺跡の南方約600mには、現在の伊勢市と南伊勢町の境である切原峠付近に端を発する横輪川が流れ、宮川に合流している。中新田遺跡の南の事業地内には、縄文時代や古墳時代遺物が散布する西垣外遺跡(2)がある。

宮川の流域では、旧石器時代の拠点集落であったと考えられる大台町の出張遺跡^①、伊勢市小俣町のママ田遺跡^②があり、この地域が早くから開かれていたことが伺える。中新田遺跡周辺では、元新田遺跡(3)でナイフ形石器などが採集されている^③。

縄文時代になると、早期から晩期まで継続的に遺跡が形成されている度会町下久具の万野遺跡^④、中期の土器が出土した伊勢市佐八町のハノカ遺跡^⑤(4)、中・後期の拠点集落と考えられている度会町の森添遺跡^⑥、後・晩期の拠点集落と考えられている佐八町の佐八藤波遺跡^⑦(5)、中ノ垣外遺跡^⑧(6)など遺跡の数が多くなり、規模も大きくなる。中新田遺跡でも縄文土器や石器が採集されている。

宮川流域では弥生時代前期の明確な遺跡は確認されていない。榑田川流域の金剛坂遺跡などでは弥生前期の遺構や遺物が確認されており^⑨、宮川流域での出方に相違が見られる。将来的に宮川流域でも前期遺物が確認される可能性があろう。中ノ垣外遺跡では中期の竅穴住居が確認されている。後期には、左岸の河岸段丘上に中薬山遺跡^⑩(7)、野垣外遺跡^⑪(8)などの大集落が広がるほか、伊勢市倭町

でも隠岡遺跡^⑫が確認されている。

古墳時代には、落合古墳群^⑬(9)で5世紀代の古墳が確認されている。古墳時代後期には、伊勢神宮外宮の南側の高倉山に全国有数の規模の横穴式石室をもつ高倉山古墳(10)が築かれる。また、佐八藤波遺跡や岩出遺跡群^⑭(11)で群集墳が確認されているほか、玉田山古墳(12)、瀬の山古墳(13)といった丘陵頂部に築かれる古墳も見られる。元新田遺跡内にも古墳(元新田古墳)があったが削平された。中新田遺跡でも分布調査時に円筒埴輪の破片が採取されており^⑮、周辺に古墳があった可能性がある。

奈良・平安時代には、中ノ垣外遺跡や隠岡遺跡で掘立柱建物が確認されている。宮川下流左岸の小御堂前遺跡^⑯では平安時代の掘立柱建物が確認され、緑釉陶器が出土し、神宮祭主の伊蘇館に関連する遺跡ではないかと考えられている。

鎌倉・室町時代には、中ノ垣外遺跡や、岩出遺跡群で多くの遺構や遺物が確認されている。鎌倉時代後期に作成され、重要文化財にも指定されている『紙本着色伊勢新名所歌合』には、藤波館と岩出館の様子が描かれている。藤波館の所在地は佐八藤波遺跡、岩出館は岩出遺跡群と考えられており、それぞれ岩出氏(後に藤波氏)、神宮祭主の中臣氏の根拠地と考えられている。岩出遺跡群からは、土師器皿を大量に含んだ廃棄土坑が確認され、祭祀との関連が想定されている。中新田遺跡の第1次調査で確認された遺構もほとんどが鎌倉時代後期のもので、この地域が伊勢神宮に関連した地域として発展していた事がうかがえる。

【註】

- ① 三ツ木貞夫ほか「出張遺跡調査報告書」大台町出張遺跡調査会 1979年
- ② 岡田登「度会郡小保町マヤマ田遺跡の先土器時代遺物」『史料』第43号 皇學館大学史料編纂所1981年
- ③ 『三重県伊勢市遺跡分布地図』伊勢市教育委員会 1981年、岩中淳之「中ノ垣外遺跡」『昭和58年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会1984年
- ④ 岡田登「下久具万野遺跡とその遺物」『歩跡2号』皇學館大学考古学研究会 1972年
- ⑤ 角谷泰弘「ハノカ遺跡」『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告—第5分冊』三重県埋蔵文化財センター 1992年
- ⑥ 田村陽一『森添遺跡発掘調査概報Ⅰ』度会町遺跡調査会 1987年、奥義次ほか『森添遺跡発掘調査概報Ⅱ』度会町遺跡調査会 1988年
- ⑦ 岩中淳之『佐八藤波遺跡発掘調査報告』伊勢市教育委員会 1990年
- ⑧ 岩中淳之「中ノ垣外遺跡」『昭和58年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員

会1984年

- ⑨ 田村陽一ほか「金剛坂遺跡」『昭和59年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1985年
- ⑩ 下村登良男「中栗山遺跡」『昭和47年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会1973年
- ⑪ 下村登良男「野垣内遺跡」『昭和48年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会1979年
- ⑫ 岩中淳之『隠岡遺跡発掘調査報告』伊勢市教育委員会1987年
- ⑬ 伊藤裕偉「近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告—第7分冊— 落合古墳群」三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1992年
- ⑭ 伊藤裕偉「岩出地区内遺跡群発掘調査報告」三重県埋蔵文化財センター 1996年
- ⑮ ⑧と同一。
- ⑯ 岩中淳之「小御堂前遺跡発掘調査報告」伊勢市教育委員会1980年



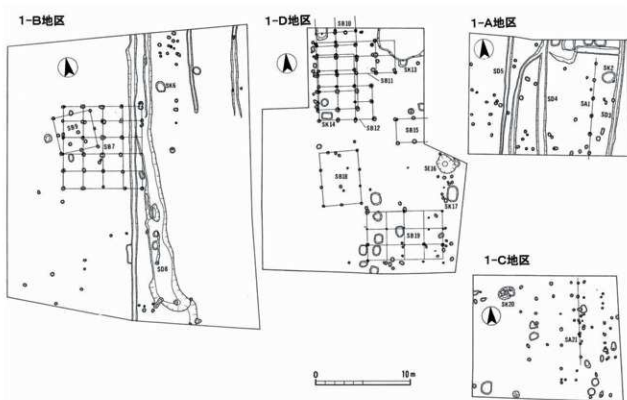
第1図 遺跡位置図（1：50,000）（国土地理院 1：25,000「国東山」・「伊勢」より作成）



第2図 遺跡地形図 (1 : 5,000) (伊勢市作成 1 : 2,500「伊勢市図A9」1978年より作成)

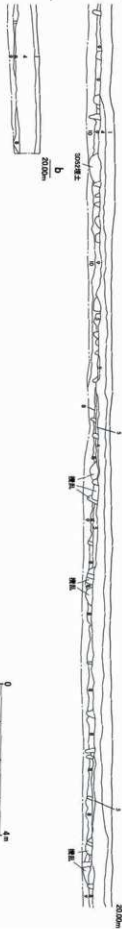


第3図 調査区位置図 (1 : 2,000)



第4図 第1次調査遺構配置図 (1 : 400) (第1次調査の報告書より)

<2-A地区>

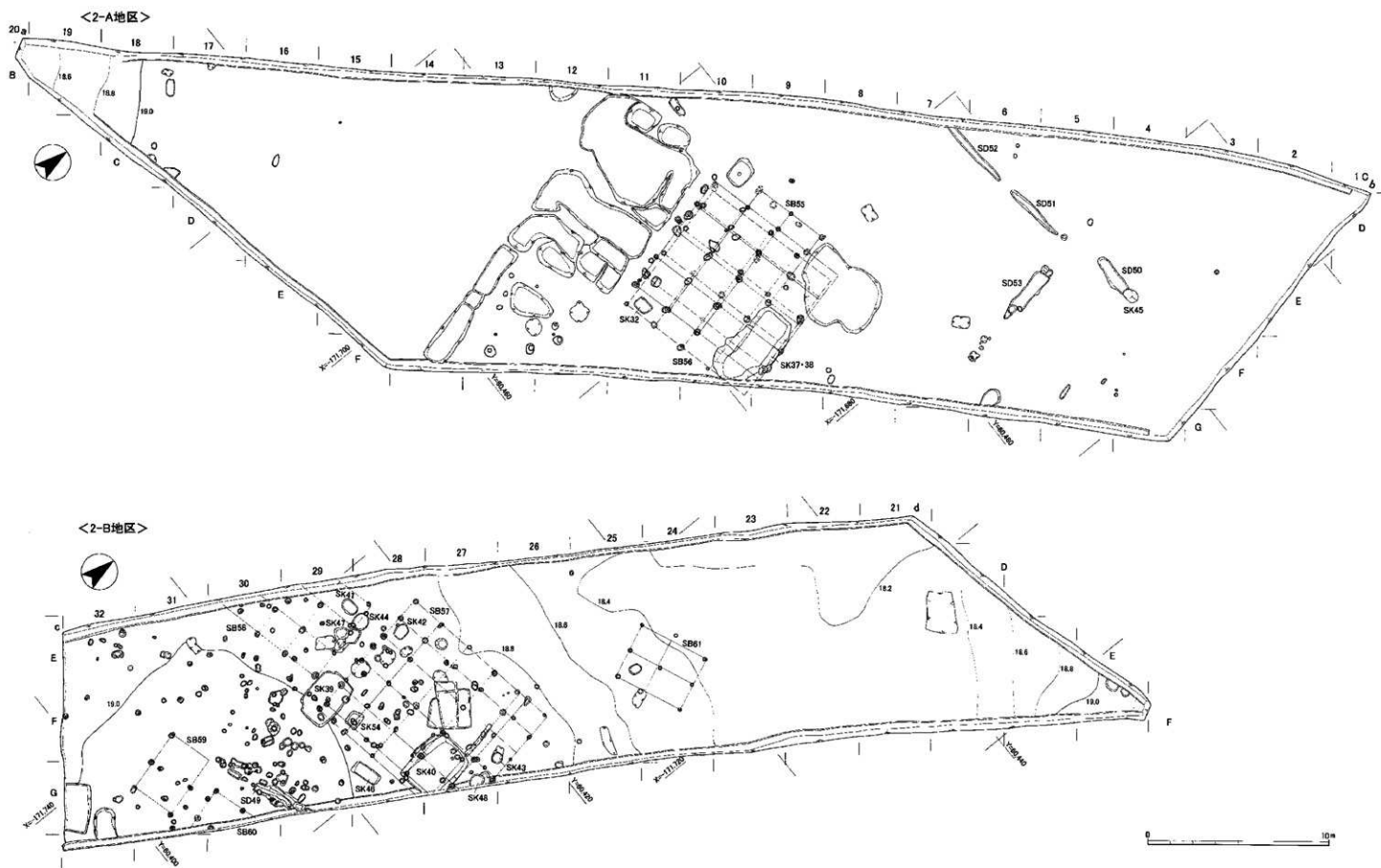


<2-B地区>



- 1 黒砂土層(色土 239Y/1)
- 2 黒砂土層(色土 239Y/1)に才層土 239Y/4(才ロ)が混入した層(色土)
- 3 黒砂土層(色土 239Y/1)に才層土 239Y/4(才ロ)が混入した層(色土)
- 4 黒砂土層(色土 239Y/1)に才層土 107M/2(才ロ)が混入した層(色土)
- 5 黒砂土層(色土 239Y/1)に才層土 239Y/4(才ロ)が混入した層(色土)
- (黒砂土の1/10は、植物の腐敗、はげ草層のみにみられる)
- 6 黒砂土層(色土 239Y/1)に才層土 239Y/4(才ロ)が混入した層(色土)
- 7 黒砂土層(色土 239Y/1)に才層土 239Y/4(才ロ)が混入した層(色土)
- 8 黒砂土層(色土 239Y/1)に才層土 239Y/4(才ロ)が混入した層(色土)
- 9 少し粗粒の赤い土質(黒砂土 107M/4)
- 10 少し粗粒の赤い土質(黒砂土 319Y/5)

第5図 断面図(1:100)



第6图 遺構平面図 (1:200)

第3章 遺構

第1節 基本層序

中新田遺跡は、中位段丘状に位置し、現況はたばこ畑などに利用されている。層序は、耕作土(1層)、ほ場整備による置土(2～6層)、黒褐色土(7層)、オリーブ褐色土(8層)、にぶい黄褐色土(9層)、赤褐色土(10層)となっている。

7層は無遺物層であり、厚さは場所によって異なっている。遺跡の形成以前に谷状の地形にこの土

が流れ込んだものと考えられる。そう考えると、検出面は、本来7層より上面となるはずであるが、現地はほ場整備事業によって元の微地形が掘削されているため、場所によって検出面が異なり、それぞれ8～10層を検出面とした。本来的な遺物包含層はなく、本書で包含層の扱いをしている遺物は、厳密には耕作土もしくは遺構直上のものを指す。

第2節 第1次調査との関係

第1章前言でも記載したとおり、今回の第2次調査では、第1次調査の1-C・1-D地区と重複して調査を行っている。第1次調査では、国土地標の振り込みが行われなかったため、第2次調査の遺構図と座標上での合成はできない。ただし、1-D地区に関しては、発掘調査後のほ場整備による掘削が浅かったためか、2-A地区の遺構との重複が見ら

れた。このため、各遺構の位置関係から第1次・第2次の遺構を図上で合成している。遺構によっては、新たな柱穴の確認などから、第1次調査の成果と異なっているものもある。このため、本報告では、第1次調査と重複する遺構についても新規の遺構番号を与え、必要に応じて第1次調査の遺構名を併記した。

第3節 遺構の概要

今回の第2次調査では、掘立柱建物7棟、区画溝、土坑及び多くの小穴を確認した。以下、主な遺構について概述するが、数値等は遺構一覧表を参照されたい。

1 2-A地区の遺構

遺構は、中央から東側で確認した。中央部には近年に掘削された壁土採取のための大きな攪乱坑が開けられていた。

調査区は、第1次調査の1-C地区・1-D地区と一部重複する。1-C地区に該当する部分は削平が激しく、図上で合成ができなかったが、1-D地区のS B10～12及びS K14に該当すると考えられる配置の柱穴や土坑などが確認されたため、第6・7図では1-D地区と2-A地区の調査結果を図上で合成して表示した。図面の合成に際しては、柱穴の配置状況により第2次調査の遺構に第1次調査の遺構を重ね合わせてトレースした。この時、柱穴等が概ね重なる場合は、第2次調査分のみトレースし、第1次調査の柱穴や根石が第2次調査で確認され

ていない場合は削平されている可能性を考えて、第1次調査の遺構を破線でトレースした。断面は、第2時調査のもので作成した。第1次調査の断面相当箇所は深さが確認できなかったため位置のみを示した。

S B55・S K38 S B55は、北側に1間×2間の張り出し部を持つ4間×4間の総柱建物で、第1次調査のS B11と、S B10の一部を取り込む。柱穴の中には石が置かれているものもあったが、再発掘であるため、当初の状況とは異なっている可能性が高い。また、細かな形状が当初と変更している可能性もある。

S K38は、深さ30cm程度でS B55の南東隅2間×1間に収まる南東隅土坑と考えられる。S K37に切られており、当初の形はわからない。床面直上からほぼ完形の土師器皿(32)が出土した。13世紀後半の陶器山茶碗や14世紀中葉と考えられる南伊勢系の土師器鍋が出土している。山茶碗の出土量が少ないため、遺構の時期は14世紀中葉と考える。

S B56・S K37 S B56は、5間×4間の総柱建物で、第1次調査のS B12と、S B10の一部を取り込む。S K37は深さ30cm程度でS B56の南東隅2間×1間に収まる南東隅土坑と考えられる。

S B56は、S B55との切り合い関係が十分確認できないが、S K37とS K38では、埋土の状況からS K37のほうが新しいと考えられる。よって、それぞれの土坑に付随する建物は、S B56がS B55より新しいと考える。

S K37からは、投棄されたと考えられるこぶし大の石が、底から浮いた状態で多数確認された。石の下からは、13世紀後半の古瀬戸前期の三耳壺や常滑の三均壺、古銭、鉄釘等と共に14世紀後半の南伊勢系土師器鍋が出土している。遺構の時期は、S K38を切っていることから14世紀後半と考える。遺構の性格としては、出土遺物から中世墓の可能性も考えられるが、遺物が石の下からバラバラに出土していたため、中世墓ではなく南東隅土坑であると考えた。

S K37の底面では、掘形の下端ラインに沿って径5cm程度の小穴が並んでいることが確認された。東側やS K37と38の切り合いライン付近では2列になつているように見える部分もある。この小穴は、真つ直ぐに深さ10～15cmほど掘られている。

S K32 第1次調査のS K14に相当すると考えられる。今回の調査では遺物は出土していないが、第1次調査で青磁片と土師器小皿が出土し、中世墓の可能性も示唆されている。

S D50・51・52、S K45 S B55の約9m北に位置する。連続していないが、方向が類似しており、同一の溝が削平されて途切れたものであると考えられる。埋土は黒褐色土であった。S K45は、S D50の一部が土坑状に深くなっており、土師器皿・小皿・羽釜が出土した。遺物は概ね14世紀後半のものである。

これらの溝の方向はS B55・56とほぼ同じで、S B55・56の屋敷地を区画する溝である可能性がある。

S D53 S D50～52とほぼ直行する溝である。遺物は出土していないが、S B55・56の屋敷地東側を区画する溝である可能性がある。

2 2-B地区の遺構

2-B地区の北西端は、2-A地区南西端から続

く黒褐色土の厚い層（7層）があり、この層からは遺物が確認されなかった。7層は遺跡形成以前の堆積層と考えられる。7層上面及び次の8層上面では遺構を確認することができなかったため、9層上面で遺構を検出した。9層は、S B61とS B57の間で高くなり、それ以南はほぼ平坦面となっている。

S B57・S K40 5間×5間の総柱建物で、南に1間分の張り出し部を持つ。S K40は深さ30cm程度でS B57の東から2間目の南隅2間×1間に収まる南東隅土坑と考えられる。S B57とS K40の切り合いは、S K40の方が新しい。S B57の断面L-L'とM-M'の間に南北方向の柱列があるが、L-L'と50cmしか離れていない。この柱列の内部にS K40が納まることから、S K40掘削に際して改築された可能性もある。この東側の1間は、改築の際に外屋として追加されたと考えられることもできる。

S K40の底面では、掘形の下端ラインに沿う形で径5cm程度の小穴が並んでいることが確認された。北壁底部から約50cm離れた箇所には、同様の小穴が約10cm離れて2列に並んでいる。小穴は、真つ直ぐに深さ20～30cmほど掘られている。遺物は、13世紀後半の陶器山茶碗、14世紀中葉～後半の南伊勢系土師器鍋などと共に鉄釘が出土している。山茶碗の出土量が少ないため、遺構の時期は14世紀中葉から後半と考える。

S B58 S B57の西側で確認した3間×2間以上の総柱建物である。S B57と建物方向は若干異なる。柱穴から13世紀後半の陶器山茶碗が出土している。

S B59 B地区南端で確認した2間×1間の側柱建物である。柱穴から13世紀後半の陶器山茶碗が出土している。

S B60 S B59の東で確認した1間以上×1間以上の建物である。柱穴から南伊勢系と考えられる土師器皿・鍋の小片が出土している。

S B61 検出面が傾斜している地点で確認した、2間×2間の建物である。柱穴から鉄釘が出土した。

S K39 S B57を切る略方形の土坑である。遺物は、13世紀後半の陶器山茶碗、15世紀前半の南伊勢系土師器鍋などが出土している。山茶碗の出土量が少ないため、遺構の時期は15世紀前半と考える。

S K46 S B57の0.6m南に位置する長方形の土

坑である。深さは40cmと他の土坑より深い。遺物は13世紀後半の陶器山茶碗。14世紀中葉から後半の土師器皿・鍋が出土している。度会町の鮎川西出B遺跡でも同様の土坑が確認されている¹⁾。建物に付属する貯蔵穴であろうか。

SK41~44・47・48・54 いずれもS B57・58周りで確認した隅丸方形の土坑である。SK54はS B57を切っている。他の土坑は切り合いがなく、建物との前後関係は不明である。

SD49 S B57の約5m南、S B59・60の約1m北で確認した溝である。方向は建物とほぼ同じである。深さは一定せず、いくつかの小穴の連続したものととも考えられる。何らかの区画の役割を持つものであろうか。遺物は、土師器皿・鍋、陶器山茶碗の破片が少量出土しているのみである。

【注】

① 西村美幸ほか『鮎川西出B遺跡（第1次）発掘調査報告』1998年、三重県埋蔵文化財センター

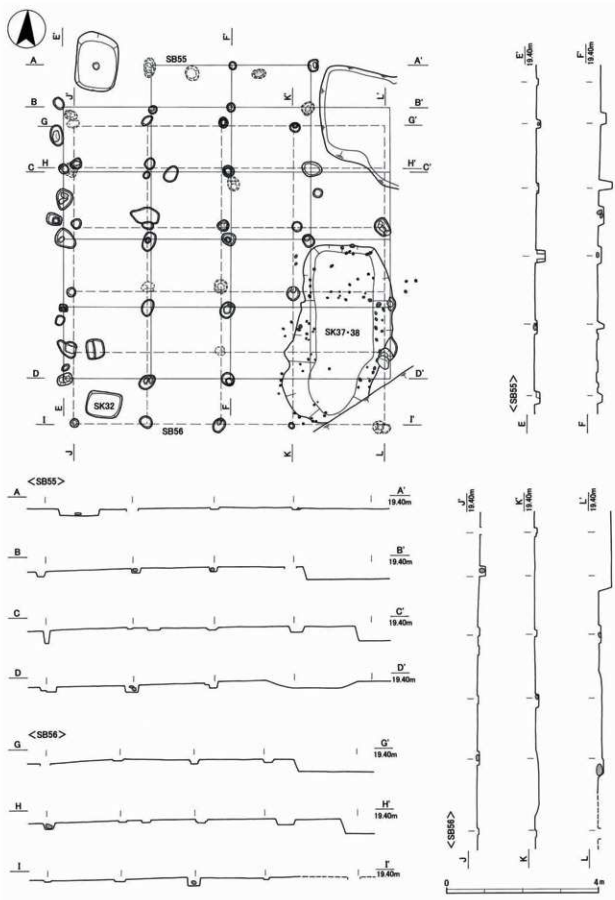
遺構番号	目名称	地区	グリッド	規模 (m)	深さ (m)	時期	備考	遺構番号	目名称	地区	グリッド	規模 (m)	深さ (m)	時期	備考
隴丸	SK31	2-A	D 8, D 9 E 8, E 9	-	-	近現代?		SK 47	SK 47	2-B	E 28, E 29	0.8×0.6	0.3	14世紀後半	
SK 32	SK 32	2-A	E 11	0.9×0.7	0.1	14世紀代	第1次調査 SK 14	SK 48	SK 48	2-B	G 27	0.7×?	0.3	中世	
SK 37-38 上層	SK 33	2-A	F 10	-	-	近現代?		SD 49	SD 49	2-B	G 29, G 30	2.4×0.9	0.5	中世	
SK 37-38 上層	SK 34	2-A	E 9, E 10 F 9, F 10	-	-	近現代?		SD 50	SD 50	2-A	D 5, E 4, E 5	2.3×0.7	0.2	14世紀後半	
SK 37-38 上層	SK 35	2-A	E 9, E 10 F 9, F 10	-	-	近現代?		SD 51	SD 51	2-A	D 5, D 6	3.5×0.5	0.1	14世紀後半?	
包含層	SK 36	2-A	E 9	-	-	-		SD 52	SD 52	2-A	C 6, C 7	4.1×0.4	0.1	14世紀後半?	
SK 37	SK 37	2-A	E 9, E 10 F 9, F 10	2.5×2.4	0.3	14世紀後半	S B 56の 南東隅土坑	SD 53	SD 53	2-A	E 6, E 6	3.3×0.7	0.1	14世紀後半?	
SK 38	SK 38	2-A	E 9, E 10 F 9, F 10	?×2.4	0.3	14世紀中葉	S B 55の 南東隅土坑	SK 54	SK 54	2-B	F 28, F 29	0.8×0.8	0.05	14世紀代	
SK 39	SK 39	2-B	E 29, F 29	2.1×2.9	0.2	15世紀前半		SB 55	-	2-A	C 9, D 9-11, E 9-11, F 9-11	-	-	14世紀中葉	規模等は、 第2次参照
SK 40	SK 40	2-B	F 27, F 28 G 27, G 28	3.6×2.8	0.3	14世紀中葉 ～後半	S B 57の 南東隅土坑	SB 56	-	2-A	D 9-11, E 9-11, F 9-11	-	-	14世紀後半	※
SK 41	SK 41	2-B	D 28, D 29	1.0×0.7	0.3	中世		SB 57	-	2-B	D 28, E 27-29, F 28-30, G 27-29	-	-	14世紀中葉 ～後半	※
SK 42	SK 42	2-B	E 28	0.9×0.7	0.05	中世		SB 58	-	2-B	D 28-30, E 28-30	-	-	13世紀後半?	※
SK 43	SK 43	2-B	F 26, F 27	0.6	0.2	14世紀代		SB 59	-	2-B	F 31, G 31	-	-	13世紀後半?	※
SK 44	SK 44	2-B	E 28	1.0× 0.85	0.1	中世		SB 60	-	2-B	G 30, G 31	-	-	中世	※
SK 45	SK 45	2-A	E 4	0.9×0.6	0.5	14世紀後半		SB 61	-	2-B	F 24, E 25, F 24, F 25	-	-	中世	※
SK 46	SK 46	2-B	G 28, G 29	1.6×0.7	0.4	14世紀中葉 ～後半									

第1表 遺構一覧表

(規模は、長さ(径)×短辺(径)の大きさを示している)

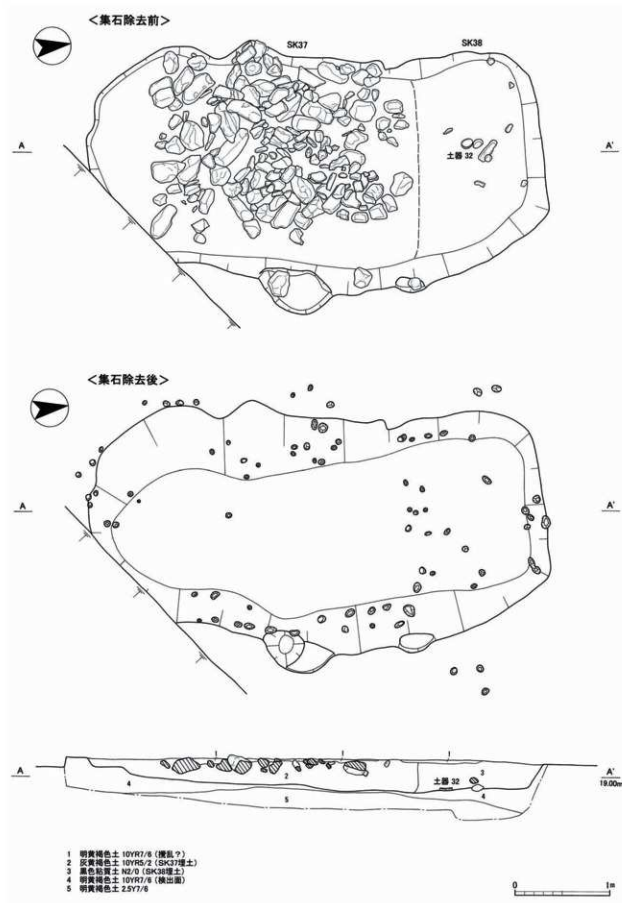
遺構番号	規模(南北×東西)			種類	棟方	柱間寸法		備考	
	間数	長さ(m)				北-南(m)			西-東(m)
		長さ(m)	面積(m ²)						
SB 55	4×4 北面張り出し	8.3×8.6	71.4	廻柱	N 2.5°W	1.1+1.7+1.8+1.8+1.9	2.3+2.1+2.1+2.1	規模は最大長	
SB 56	5×4	7.9×8.2	64.8	廻柱	N 2.5°W	1.1+1.6+1.7+1.6+1.9	1.9+2.0+1.9+2.4		
SB 57	5×5 南面張り出し	8.0×9.8	78.4	廻柱	N 1.5°E	1.3+1.3+1.8+1.8+1.9+0.5	1.9+2.0+2.0+1.9+0.5+1.9	規模は最大長	
SB 58	3×?	5.0×?	?	廻柱	N 1.5°W	1.5+1.8+1.7	?+1.8+2.2		
SB 59	1×2	2.5×3.6	9.0	廻柱	N 3.5°W	1.8+1.8	2.5		
SB 60	?×?	?×?	?	不明	N 4.5°W	1.8+?	1.8+?		
SB 61	2×2	3.2×4.0	12.8	廻柱	N 11.5°W	1.6+1.6	1.8+2.2		

第2表 掘立柱建物観察表

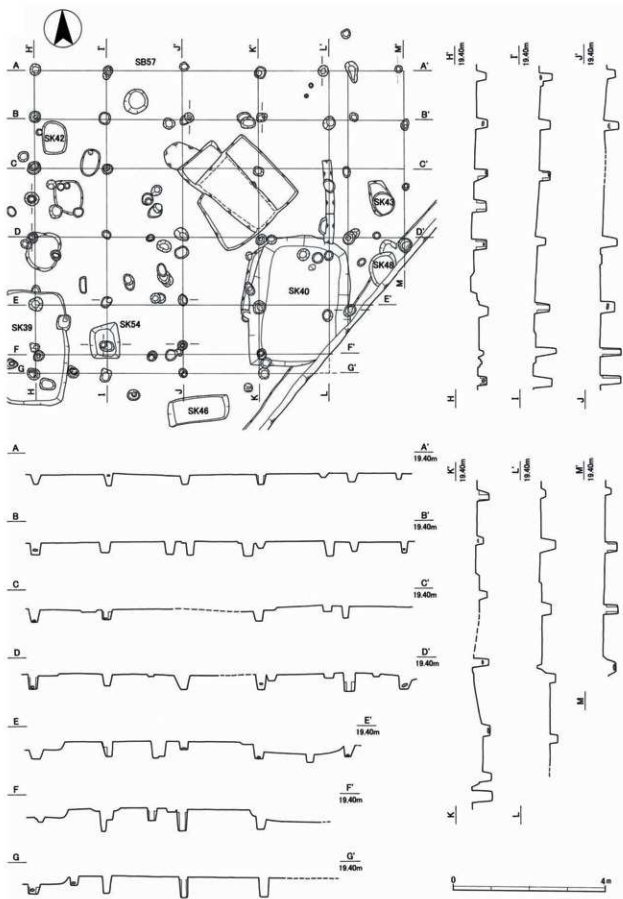


第7図 SB55・56実測図 (1 : 100)

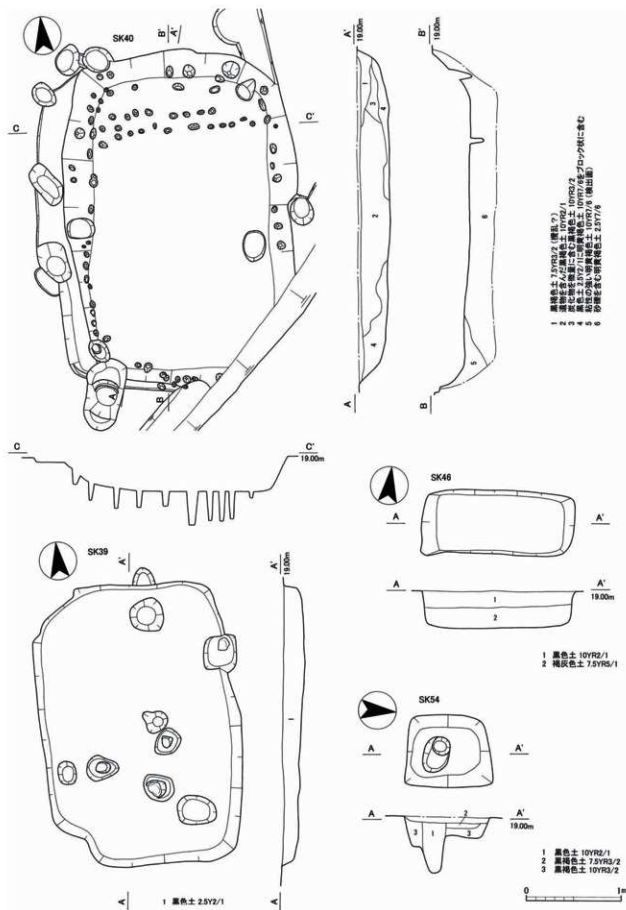
平面図の実線はS B55、破線はS B56



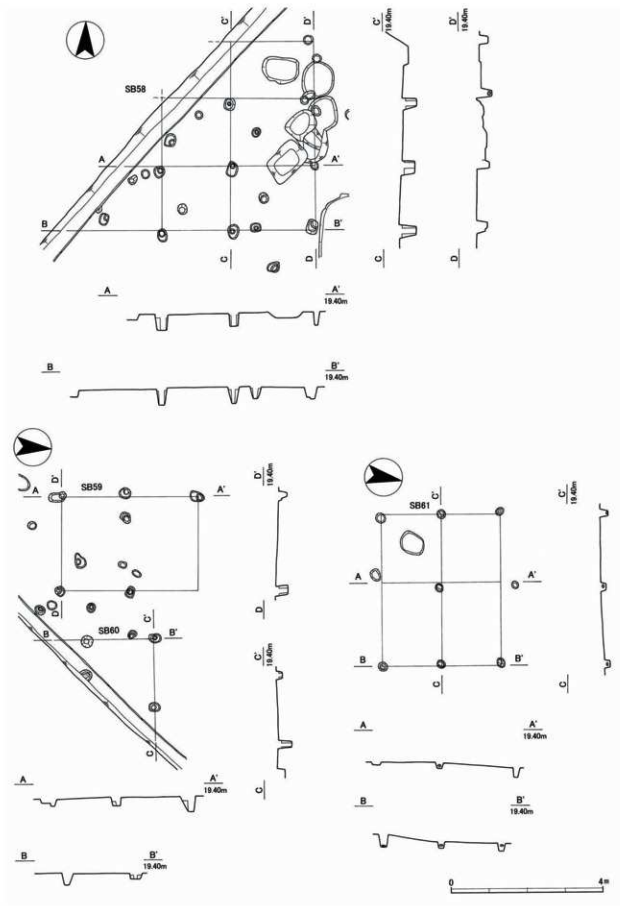
第8図 SK37・38実測図 (1:40)



第9图 SB57实测图 (1:100)



第10図 SK40・39・46・54実測図(1:40)



第11图 SB58~61实测图 (1 : 100)

第4章 遺物

第1節 第2次調査出土遺物 (第12~14図)

1 2-A地区出土の遺物

SK37出土遺物 (1~25)

南伊勢系の土師器には小皿(1・2)・皿(3~7)・鍋(9~11)がある。鍋は、伊藤氏による編年の第3段階a型式(14世紀後半)に相当する。陶器山茶碗(8)は、藤澤氏による編年の第7型式(13世紀後半)に相当し、土師器より古い様相を示す。14は常滑産の水瓶もしくは片小瓶と考えられる。17は古瀬戸前期の三耳壺で、藤澤氏による編年の前期(13世紀中葉)に位置づけられる。外面は刷毛塗りによって施釉されている。18の陶器三均壺は、常滑産のものである。

SK38出土遺物 (26~40)

南伊勢系の土師器には、小皿(26~29)・皿(30~33)・鍋(36~38)がある。29はゆがみが大きい。鍋は、伊藤氏による編年の第2段階c型式(14世紀中葉)に相当する。陶器山茶碗(34・35)は藤澤氏による編年の第7型式(13世紀後半)に相当する。39は鉄製の金具の一部であろうか。

SK37・38上層出土遺物 (41~60)

SK37・38の上層、調査時点ではSK33~35としていた箇所から出土した遺物である。ほ場整備などによる擾乱土坑と考えられるが、SK37・38の遺物を含むと考えられるため、一括で記載する。

南伊勢系の土師器には小皿(41~43)・皿(44~47)・鍋(53)がある。鍋は、伊藤氏による編年の第2段階c型式(14世紀中葉)に相当する。土師器羽釜(54)は、金子氏による編年のA3類(14世紀中葉~後半)に相当する。陶器山茶碗(48)は、藤澤氏による編年の第7型式(13世紀後半)に相当する。青磁は、鎗蓮弁文が施されたもの及び見込みに蓮華文のスタンプが押印されているものである。このほか、篆書の政和通宝(55)、行書の元豊通宝(56)、鉄釘(57~59)、石硯(60)が出土している。古銭は文字も鮮明であり、模範銭ではなく、輸入されたものと考えられる。石硯には、短辺の一方が切断された痕跡があり、なんらかの用途に転用されていた

と考えることができる。

SK45出土遺物 (61~67)

南伊勢系の土師器には小皿(61)・皿(62~65)・鍋(66)・羽釜(67)がある。鍋は伊藤氏による編年の第3段階a型式(14世紀後半)に相当する。羽釜は金子氏による編年のC2類(15世紀前半)に相当。

SD50出土遺物 (68~73)

南伊勢系の土師器には皿(68~71)・鍋(72・73)がある。鍋は伊藤氏による編年の第3段階a型式(14世紀後半)に相当する。

2 2-B地区出土の遺物

SB57出土遺物 (74~79)

南伊勢系の土師器には小皿(74~76)・皿(77~78)がある。陶器山茶碗(79)は、藤澤氏による編年の第7型式(13世紀後半)に相当する。底部に墨の痕跡があり、「〇」字状の記号とも考えられるが、不鮮明であり、意図して書いた墨書であるのかどうかは不明である。

SK40出土遺物 (80~108)

南伊勢系の土師器には小皿(80~81)・皿(82~91)・羽釜(98)・鍋(99~108)がある。鍋は、伊藤氏による編年の第2段階c型式及び第3段階a型式(14世紀中葉~後半)に相当する。羽釜は金子氏による編年のJ類(14世紀後半~15世紀前半)に相当する。陶器には、山茶碗(92~94)、鉢鉢(96・97)がある。山茶碗は藤澤氏による編年の第7型式(13世紀後半)に相当する。青磁(95)は蓮弁文が施されたものである。鉄釘も出土している。

SB58出土遺物 (110)

陶器山茶碗(110)が出土している。藤澤氏による編年の第7型式(13世紀後半)に相当する。

SB59出土遺物 (111~114)

南伊勢系の土師器には皿(111)がある。陶器山茶碗(112~114)は、藤澤氏による編年の第7型式(13世紀後半)に相当する。

SB61出土遺物 (115)

遺物はほとんど出土しておらず、図示できるのは

鉄釘のみである。直角に折れ曲がっている。

SK 39出土遺物 (116~120)

南伊勢系の土器には皿(116・117)・鍋(120)がある。鍋は伊藤氏による編年の第3段階b型式(15世紀前半)に相当する。陶器には、山茶碗(118・119)がある。藤澤氏による編年の第7型式(13世紀後半)に相当する。

SK 46出土遺物 (121~124)

南伊勢系の土器には皿(121)・鍋(123・124)が出土している。鍋は、伊藤氏による編年の第2段階c型式及び第3段階a型式(14世紀中葉~後半)に相当する。124は口縁部の形態が通常と異なるが、胎土や調整から南伊勢系の鍋の範疇にあると考えられる。122は、陶器山茶碗で、藤澤氏による編年の第7型式(13世紀後半)に相当する。

SK 43出土遺物 (125~129)

南伊勢系の土器には小皿(125)・皿(126~128)がある。青磁碗(129)は、見込み部に花文のスタンプ文を持つ。

SK 47出土遺物 (130)

南伊勢系の土器の羽釜が出土。金子氏による編年のJ類(14世紀後半~15世紀前半)に相当する。

SK 54出土遺物 (131)

南伊勢系の土器鍋が出土している。伊藤氏による編年の第2段階b型式(14世紀前半)に相当する。

小穴出土遺物 (132~148)

本報告で建物の柱穴とされなかった小穴のうち、遺物が出土しているものが多数ある。各小穴の出土は少量である。ここでは、図上で復元可能なものを図示した。これらは、南伊勢系の土器や陶器山茶碗で他の遺構のものと大きな形態差を持たない。

3 包含層出土の遺物

青磁碗(149~151)のうち、149は錆蓮弁文が施されたもの、150は割花文が描かれたものである。南伊勢系の土器鍋(152)は、伊藤氏による編年の第3段階a型式に相当する。石鐘(153)は、丸く扁平な石に切れ目を施したものである。

第2節 第1次調査出土遺物 (第15・16図)

第1次調査で出土した遺物は、同報告書に掲載されているが、「ある程度セットとして出土した主な遺構伴出の土器についてのみ概観」されている。中新田遺跡の位置づけを考えると、第1次調査出土遺物も含めて考える必要があるため、本稿では、第1次調査掲載及び未掲載の遺物についても収録する。

なお、図面は第1次調査報告書を再トレースし(一部修正)、その下に未掲載遺物を配置している。このため、第15図の1~36と37以下では同一遺構出土の遺物が分かれて記載されている場合がある。器種については、第1次調査報告書と異なる名称にしている場合があるので、その点をよく解いたいただきたい。

1 1-A地区出土の遺物

SK 2出土遺物 (1~18・37・38)

南伊勢系土器には小皿(1~5・37)・皿(6~8・38)・鍋(16~18)がある。鍋は、伊藤氏による編年の第2段階b型式~c型式(13世紀後半~14世紀中葉)に相当する。陶器は山茶碗(9・10・12~14)・山皿(11)がある。山茶碗は、藤澤氏による編年の第7型式(13世紀後半)に相当する。山

皿は本遺跡からの出土はきわめて少なく、図示が可能なものはこの1点のみである。

SD 4出土遺物 (19・20・25・28~30・33・39~42)

南伊勢系土器には皿(25)・鍋(19・20・33)がある。鍋は伊藤氏による編年の第1段階b型式~第2段階a型式(13世紀後半)に相当する。山茶碗は、藤澤氏による編年の第6~7型式(13世紀半ば~後半)に相当する。42の底部には墨の跡があり、「●」に類似した墨書が書かれている可能性がある。

2 1-B地区出土の遺物

SK 6出土遺物 (43・44)

南伊勢系土器の小皿(43・44)が出土している。

SB 7・9出土遺物 (45~51)

南伊勢系土器には小皿(45~47)・鍋(50~51)がある。鍋は、伊藤氏による編年の飯A~第1段階(12世紀後半~13世紀初)に相当する。陶器は山茶碗(48・49)が出土しているが、これらは、藤澤氏による編年の第6型式(13世紀前半)に相当する。

SD 8出土遺物 (52~57)

南伊勢系土器には伊藤氏による編年の(飯)A

段階(12世紀後半)に相当する変形のもの(52)がある。陶器山茶碗(53~56)は、高台の形態に差があり、藤澤氏による編年の第5型式(13世紀初頭)から第7型式(13世紀後半)のものを含むと考えられる。陶器の筒形香炉(57)は、灰釉を施したもので、登り窯第3小期(17世紀中葉)のものと考えられる。混入品であろう。

3 1-C地区出土の遺物

SK13出土遺物(21~24、31・32、58~67)

南伊勢系土師器には小皿(21~23・58~61)・皿(24・62・63)・鍋(65・66)がある。小皿21はゆがみが大きい。鍋は、伊藤氏による編年の第1段階b型式(13世紀後半)に相当する。陶器山茶碗(31・32)は藤澤氏による編年の第7型式(13世紀後半)に相当する。64は陶器平碗の底部で、藤澤氏による大窯編年の第2段階(16世紀初頭)に相当する。混入品であろう。

SB11出土遺物(68・69)

2-A地区のSB55に相当する。南伊勢系土師器小皿(68)・皿(69)が出土している。

SB18出土遺物(70~73)

南伊勢系土師器には小皿(70)・鍋(71)がある。鍋は、伊藤氏による編年の第3段階a型式(14世紀後半)に相当する。陶器は山茶碗(72・73)がある。山茶碗は、藤澤氏による編年の第7型式(13世紀後半)に相当する。

SB19出土遺物(74~77)

南伊勢系土師器小皿(74)・皿(75~77)が出土している。

SK14出土遺物(79~82)

2-A地区のSK32に相当する。南伊勢系土師器には小皿(79)・皿(80)がある。青磁碗(81)は、見込み部に幾何学文で模様を4分割したスタンプを押印する。陶器鉢(?) (82)は明褐色を呈する。近代の遺物の混入か。

SE16出土遺物(83~86)

南伊勢系土師器には小皿(83)・鍋(85)・羽釜(84)がある。86は陶器鉢鉢である。

SK17出土遺物(26・34、87~96)

南伊勢系土師器には皿(26・87~92)・鍋(34・94~96)・羽釜(93)がある。鍋は伊藤氏による編年

の第2-c段階(14世紀中葉)に相当し、羽釜は金子氏による編年のC2類(15世紀前半)に相当する。

4 1-D地区出土の遺物

SK20出土遺物(27・35・36・78)

南伊勢系土師器には皿(27・78)・鍋(35・36)がある。鍋は、伊藤氏による編年の第3段階a型式(14世紀後半)に相当する。

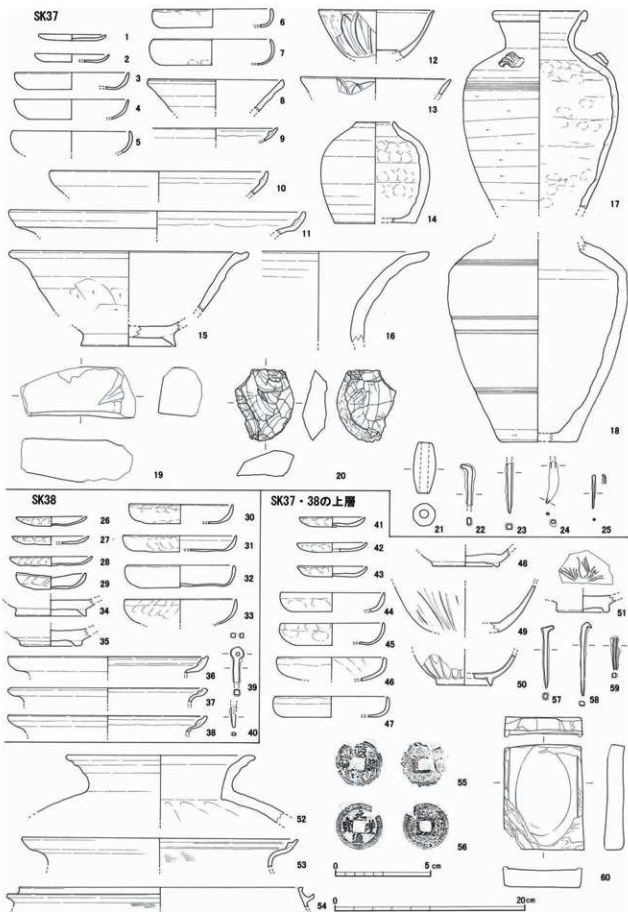
集石出土遺物(97~105)

第1次調査の報告書には明示されていないが、第2次調査のSK37・38に相当する箇所集石が確認されている。この周辺から出土した遺物には、南伊勢系では土師器の小皿(97・98)・皿(99)・鍋(100)がある。鍋は、伊藤氏による編年の第3段階a型式(14世紀後半)に相当する。陶器は山茶碗(101)・常滑産の片口鉢(105)がある。山茶碗は、藤澤氏による編年の第7型式(13世紀後半)に相当する。青磁碗は銘蓮弁文を持つものである。

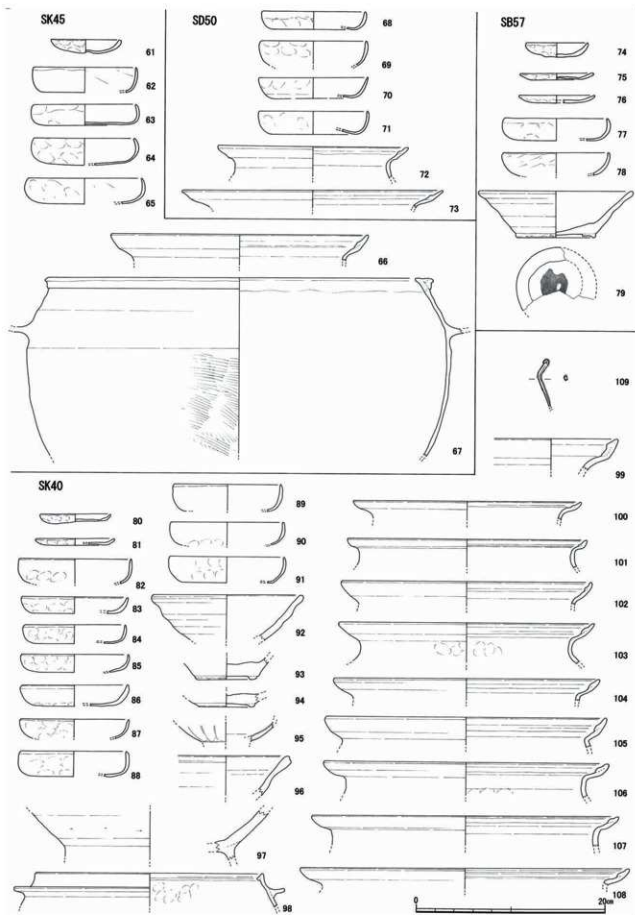
5 包含層出土の遺物

チャートの剥片(106)、須恵器壺の口縁部(107)、灰釉陶器壺の底部(108・109)、山茶碗(110・111)、青磁碗(112・113)、白磁碗(114)、陶器端反皿(115)、染め付け碗(116)、陶器鉢鉢(117~119)を図示した。107~109は平安時代のものであろうか。115は登り窯第4小期(17世紀末)のものか。[註] 遺物の年代等に関しては、以下の文献を参考にした。

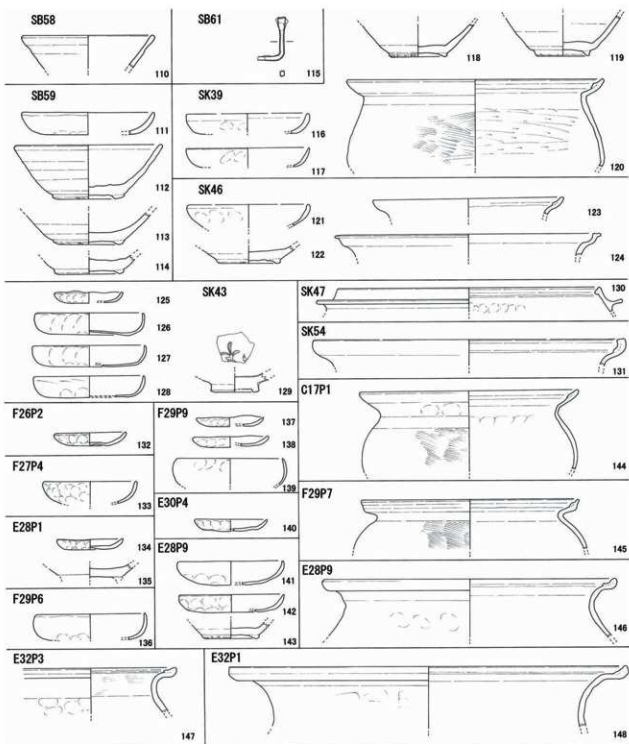
- ・ 南伊勢系土師器：伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『M:history vol.1』三重歴史文化研究会 1990年及び、伊藤裕偉「南伊勢系土師器の展開と中世土器工人」『研究紀要 第1号』三重県埋蔵文化財センター 1992年
- ・ 土師器羽釜：金子健一「土師煮炊具から見た中世の東海と東国〜14・15世紀を中心に〜」『(財)瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 第8号』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター 2000年
- ・ 陶器山茶碗・藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要 第3号』三重県埋蔵文化財センター 1994年
- ・ 古瀬戸：藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅲ—古瀬戸前期様式の編年—」『(財)瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 第3号』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター 1985年
- ・ 大窯：藤澤良祐ほか「瀬戸市史 陶磁史篇Ⅳ」愛知県瀬戸市 1993年



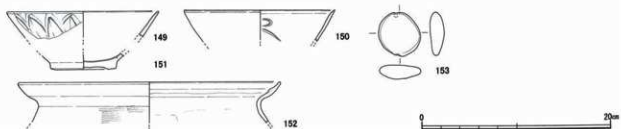
第12図 第2次調査出土遺物実測図(1) (1:4ただし55・56は1:2)



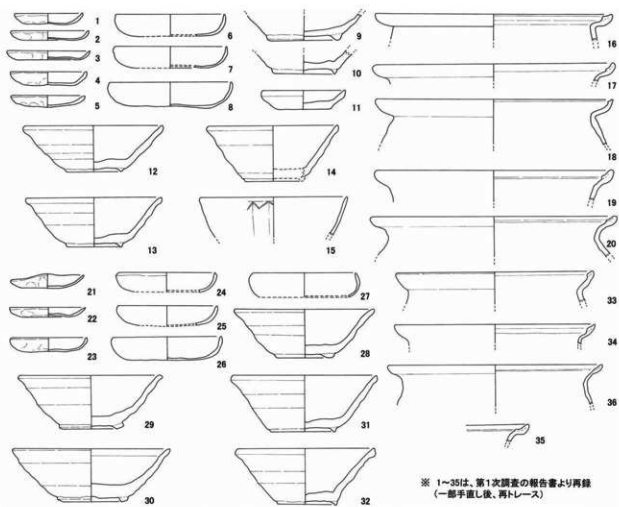
第13図 第2次調査出土遺物実測図(2)(1:4)



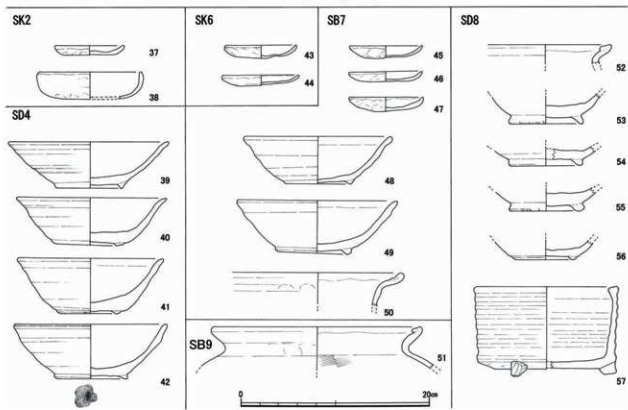
包含層



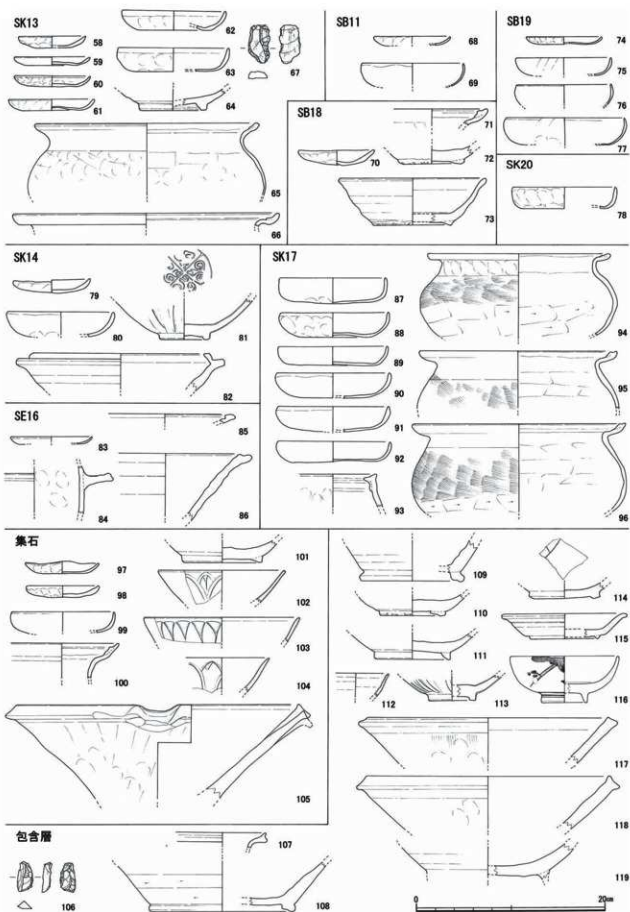
第14図 第2次調査出土遺物実測図(3)(1:4)



※ 1～35は、第1次調査の報告書より再録
 (一部手直し後、再トレース)



第15図 第1次調査出土遺物実測図(1)(1:4)



第16図 第1次調査出土遺物実測図(2)(1:4)

番号	発掘地区	種・質	形状など	地質	マトリクス	遺跡・層名等	測定 (μm)	測定・注目の特徴	粘土	色調	保存度	特記事項
1	047-03	土師器	小皿	2-A	F10	S K37	(1) 2.0 (底) 0.8	外:ナゲ 内:ナゲ	やや密	浅黄褐色	1000/3	11層底 3/12
2	047-02	土師器	小皿	2-A	F10	S K37	(1) 2.6 (底) 0.8	外:ナゲ+オキム 内:ナゲ+オキム	密	灰白 内:黄褐色	2,300/2 2,100/3	11層底 2/12
3	047-01	土師器	皿	2-A	F9	S K37	(1)12.0 (底) 1.7	外:ナゲ+コナダ 内:ナゲ+コナダ	やや密	灰白	2,100/2	11層底 3/12
4	047-06	土師器	皿	2-A	F10	S K37	(1)12.0 (底) 1.1	外:ナゲ 内:ナゲ	やや密	外:黄褐色 内:黄褐色	2,300/2 1000/3	11層底 2/12
5	047-05	土師器	皿	2-A	F10	S K37	(1)12.3 外:ナゲ 内:ナゲ	外:ナゲ 内:ナゲ	やや密	外:黄褐色 内:黄褐色	2,300/2 1000/3	11層底 5/12
6	047-07	土師器	皿	2-A	F10	S K37	(1)12.4 (底) 1.3	外:ナゲ 内:ナゲ	やや密	外:黄褐色 内:黄褐色	2,200/2 2,107/3	11層底 2/12
7	047-08	土師器	皿	2-A	F10	S K37	(1)12.5 (底) 2.7	外:ナゲ+オキム 内:ナゲ	やや密	黄褐色	2,107/2	11層底 1/12
8	047-04	陶器	山形鉢	2-A	F9	S K37	(1)13.4	外:コナダ 内:コナダ	密	外:黄褐色 内:灰白	2,108/1 2,107/1	11層底 5/12
9	047-09	土師器	皿	2-A	F10	S K37	小片	外:コナダ 内:コナダ	やや密	外:黄褐色 内:黄褐色	1000/2 1000/3	小片
10	047-08	土師器	皿	2-A	F9	S K37	(1)12.0	外:コナダ 内:コナダ	やや密	外:黄褐色 内:灰白	2,107/2 2,106/2	11層底 5/12
11	047-04	土師器	皿	2-A	F9	S K37	(1)12.2	外:コナダ 内:コナダ	やや密	外:黄褐色 内:黄褐色	1000/3 2,106/3	11層底 5/12
12	047-02	陶器	鉢	2-A	F10	S K37	(1)12.2	外:コナダ+黄緑 内:コナダ+黄緑	密	黄緑:灰白 黄緑:黄緑	2,107/1 1000/1	11層底 1/12
13	047-01	陶器	鉢	2-A	F10	S K37	(1)12.8	外:コナダ+黄緑 内:コナダ+黄緑	密	黄緑:灰白 黄緑:黄緑	2,107/1 2,106/1	11層底 5/12
14	047-02	陶器	高直心 口付鉢	2-A	F9	S K37	(1) 4.0 (底) 0.8	外:コナダ+黄緑 内:コナダ+黄緑	密	灰	2,106/1	11層底 4/12 灰黄赤
15	047-03	陶器	鉢	2-A	F9	S K37	(1)20.2 (底)10.0	外:コナダ+黄緑+オキム 内:コナダ	密	黄緑	1000/1	台底 4/12 黄赤赤
16	047-02	陶器	壺	2-A	F10	S K37	小片	外:ナゲ+コナダ 内:ナゲ+コナダ	密	黄緑	2,103/1	小片 灰黄赤
17	047-01	陶器	三日月蓋	2-A	F9	S K37	(1)12.0 (底)0.2	外:コナダ+黄緑+オキム 内:コナダ	密	灰白	107/1	縁部保存 黄赤赤
18	047-02	陶器	三日月蓋	2-A	F9+ F10	S K37	(底) 6.1	外:コナダ+黄緑+オキム 内:コナダ	やや密	外:白+黄 内:黄褐色	2,106/2 2,106/2	底面 4/12 黄赤赤
19	047-03	鉄製品	砥石	2-A	F9	S K37	(底)12.1	-	-	-	-	底面 2/12g
20	047-03	鉄製品	砥石	2-A	F9	S K37	(底) 7.6 (底) 6.2	-	-	-	-	底面 1/12g
21	047-05	土師器	土師	2-A	F10	S K37	(底) 5.4 (底) 2.3	ナゲ	密	灰白+黄	2,100/4	底面
22	047-06	鉄製品	釘	2-A	F10	S K37	(埋存品)	4.3	-	-	-	-
23	047-06	鉄製品	釘	2-A	F10	S K37	(埋存品)	5.3	-	-	-	-
24	047-04	鉄製品	釘	2-A	F10	S K37	(埋存品)	4.6	-	-	-	-
25	047-07	鉄製品	釘	2-A	F10	S K37	(埋)	3.6	-	-	-	-
26	047-07	土師器	小皿	2-A	F10	S K36	(1) 7.4 (底) 1.0	外:ナゲ+オキム 内:ナゲ	密	灰白+黄褐色	1000/1	11層底 5/12
27	047-08	土師器	小皿	2-A	F10	S K36	(1) 9.0 (底) 0.8	外:ナゲ+オキム 内:ナゲ	密	外:灰白 内:黄褐色	2,106/2 2,1000/3	11層底 2/12
28	047-09	土師器	小皿	2-A	F10	S K36	(1) 6.7 (底) 1.0	外:ナゲ+オキム 内:ナゲ	密	外:黄褐色 内:灰白+黄褐色	1000/2 1000/4	11層底 3/12
29	047-06	土師器	皿	2-A	E10	S K36	(1) 7.0 (底) 1.7	外:ナゲ+オキム 内:ナゲ	密	灰白+黄褐色	1000/3	11層底 4/12
30	047-04	土師器	皿	2-A	E10	S K36	(1)12.0 外:ナゲ 内:ナゲ	外:ナゲ+オキム 内:ナゲ	密	灰白	10000/2	11層底 3/12
31	047-03	土師器	皿	2-A	E10	S K36	(1)12.0 (底) 1.7	外:ナゲ+オキム 内:ナゲ	密	外:黄褐色 内:灰白+黄褐色	1000/3 1000/4	11層底 2/12
32	047-07	土師器	皿	2-A	F10	S K36	(1)11.4 (底) 2.1	外:ナゲ 内:ナゲ	やや密	外:灰白+黄褐色 内:灰白+黄褐色	1000/2 1000/3	底面
33	047-06	土師器	皿	2-A	E10	S K36	(1)12.0	外:ナゲ+オキム 内:ナゲ	密	外:黄褐色 内:灰白+黄褐色	2,106/2 1000/4	11層底 2/12
34	047-02	陶器	山形鉢	2-A	E9	S K36	(埋) 7.0	外:コナダ+黄緑+オキム 内:コナダ	密	外:黄褐色 内:黄褐色	1000/2 2,106/2	台底 5/12
35	047-01	陶器	山形鉢	2-A	E9	S K36	(埋) 6.6	外:コナダ+黄緑+オキム 内:コナダ	密	外:灰白+黄褐色 内:灰白	1000/2 1000/1	台底 4/12
36	047-02	土師器	皿	2-A	E10	S K36	(1)12.0	外:コナダ 内:コナダ	密	外:黄褐色 内:灰白+黄褐色	1000/2 1000/4	11層底 2/12
37	047-03	土師器	皿	2-A	E9	S K36	(1)12.0	外:コナダ 内:コナダ	密	外:黄褐色 内:灰白+黄褐色	2,106/1 1000/3	11層底 5/12
38	047-01	土師器	皿	2-A	E9	S K36	(1)12.0	外:コナダ 内:コナダ	密	外:黄褐色 内:灰白+黄褐色	1000/2 1000/3	11層底 5/12
39	047-06	鉄製品	釘	2-A	E9	S K36	(埋存品)	3.8	-	-	-	-
40	047-09	鉄製品	金具	2-A	E10	S K36	(埋存品)	2.2	-	-	-	-

第3表 第2次調査出土遺物観察表(1)

番号	調査区	種・瓦	形状など	地区	アゾート	遺跡-発見年	調査 (年)	調査・発見の概要	出土	色 調	保存度	特記事項
41	003-06	土師器	小皿	2-A	E9	S.K.37-380 上層	(1) 4.8 (底) 2.0	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ+ニ長ナガ	赤	にぶい濃焼	10087/3	11層底 4/12
42	003-01	土師器	小皿	2-A	E9	S.K.37-380 上層	(1) 7.3 (底) 1.0	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ+ニ長ナガ	赤	浅黄焼	10088/3	11層底 3/12
43	003-02	土師器	小皿	2-A	E9	S.K.37-380 上層	(1) 7.3 (底) 1.1	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ+ニ長ナガ	赤	にぶい濃焼	10087/3	11層底 3/12
44	003-03	土師器	皿	2-A	E9	S.K.37-380 上層	(1)11.0 (底) 2.0	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ+ニ長ナガ	赤	浅黄焼	7.1008/3	11層底 3/12
45	003-08	土師器	皿	2-A	E9	S.K.37-380 上層	(1)11.0 (底) 2.3	丸ノコナガ・オサユ+ヨコナガ 内:ナガ	やや赤	にぶい焼	7.1008/4	11層底 2/12
46	002-07	土師器	皿	2-A	E9	S.K.37-380 上層	(1)11.4 (底) 2.2	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ+ニ長ナガ	やや赤	にぶい濃焼	10087/4	11層底 3/12
47	003-05	土師器	皿	2-A	E9	S.K.37-380 上層	(1)12.3 (底) 2.2	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ+ニ長ナガ	赤	浅黄焼	10088/3	11層底 3/12
48	001-05	陶磁	山吹瓶	2-A	F9	S.K.37-380 上層	(6) 7.0	丸ノコナガ・非切縁・短リ付高付 内:ヨコナガ	やや赤	灰白	2.107/1	台座 4/12
49	002-04	陶磁	瓶	2-A	E9	S.K.37-380 上層	(6) 7.0	丸ノコナガ・施輪 内:ヨコナガ+施輪	赤	濃黄 灰白 施輪+アゴ	87/9 1007/1	台座 2/12
50	002-02	陶磁	瓶	2-A	E9	S.K.37-380 上層	(6) 5.8	丸ノコナガ・施輪+短リ付高付 内:ヨコナガ+施輪	赤	濃黄 灰白 施輪+アゴ	87/9 1007/1	台座 3/12
51	002-03	陶磁	瓶	2-A	E9	S.K.37-380 上層	(6) 5.4	丸ノコナガ・ヨコナガ+施輪+ 短リ付高付 内:ヨコナガ+施輪	赤	濃黄 灰白 施輪+アゴ	87/9 1007/2	台座 4/12
52	002-06	陶磁	壺	2-A	F9	S.K.37-380 上層	(1)13.8	丸ノコナガ	黄	灰白	10085/1	11層底 3/12
53	003-01	土師器	鉢	2-A	F9	S.K.37-380 上層	(1)28.0	丸ノコナガ 内:ハマメ+ヨコナガ	やや赤	にぶい焼	7.1007/3	台座 2/12
54	003-02	土師器	沼皿	2-A	F9	S.K.37-380 上層	(1)38.0 内:400/33.2	丸ノコナガ・ヨコナガ+短リ付ナガ 内:ヨコナガ	赤	浅黄焼	10088/3	11層底 1/12
55	002-02	古銭	元金貨 背	2-A	E9	S.K.37-380 上層	(8) 2.4	-	-	-	-	-
56	002-02	古銭	元金貨 背	2-A	E9	S.K.37-380 上層	(8) 2.4	-	-	-	-	-
57	002-06	銅貨	錠	2-A	E9	S.K.37-380 上層	(8) 6.5	-	-	-	-	-
58	002-08	銅貨	錠	2-A	E9	S.K.37-380 上層	(8) 7.8	-	-	-	-	-
59	002-03	銅貨	錠	2-A	F9	S.K.37-380 上層	(保存箱) 3.4	-	-	-	-	-
60	003-04	銅貨	錠	2-A	F10	S.K.37-380 上層	(6)11.0 (底) 4.2	-	-	-	-	断面を削いで内径が 拡大している
61	013-06	土師器	小皿	2-A	E4	S.K.45	(1) 7.3+7.8 (底) 1.4	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ	やや赤	浅黄焼	10085/3	11層底2層
62	013-06	土師器	皿	2-A	E4	S.K.45	(1)11.0 (底) 2.4	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ+ニ長ナガ	赤	浅黄焼	10085/3	11層底 3/12
63	013-09	土師器	皿	2-A	E4	S.K.45	(1)11.4 (底) 2.3	丸ノコナガ・オサユ+ヨコナガ 内:ナガ+ヨコナガ	やや赤	灰白	10086/2	11層底 5/12
64	013-10	土師器	皿	2-A	E4	S.K.45	(1)11.3 (底) 2.8	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ	赤	灰白	10088/1	11層底 5/12
65	013-07	土師器	皿	2-A	E4	S.K.45	(1)12.8 (底) 2.7	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ	赤	灰白	10086/2	11層底 2/12
66	003-02	土師器	皿	2-A	E4	S.K.45	(1)22.0	丸ノコナガ 内:ヨコナガ	赤	にぶい濃焼	10087/4	11層底 1/12
67	006-01	土師器	皿	2-A	E4	S.K.45	(1)32.0	丸ノコナガ 内:ハマメ+ヨコナガ+短リ付ナガ 内:ナガ+ニ長ナガ	やや赤	灰白	10086/2	11層底 1/12
68	003-02	土師器	皿	2-A	D4	S.D30	(1)11.0 (底) 1.9	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ	やや赤	浅黄焼	10085/3	11層底 5/12
69	003-05	土師器	皿	2-A	D4	S.D30	(1)11.4	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ	赤	浅黄焼	10088/3	11層底 2/12
70	006-04	土師器	皿	2-A	D4	S.D30	(1)11.5	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ	赤	浅黄焼	10088/3	11層底 1/12
71	010-02	土師器	皿	2-A	D4	S.D30	(1)11.6 (底) 2.4	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ	赤	浅黄焼	10088/3	11層底 2/12
72	017-02	土師器	皿	2-A	D4	S.D30	(1)28.0	丸ノコナガ+ヨコナガ 内:ナガ+ニ長ナガ	やや赤	灰 浅黄焼 内:にぶい濃焼	10085/2 10087/3	11層底 1/12
73	017-01	土師器	皿	2-A	E4	S.D30	(1)32.4	丸ノコナガ+ヨコナガ 内:ヨコナガ	やや赤	赤 浅黄焼 内:にぶい濃焼	10085/2 10086/3	11層底 1/12
74	022-04	土師器	小皿	2-B	F36	S.B37	(1) 4.6 (底) 1.5	丸ノコナガ 内:ナガ	赤	浅黄焼	10085/3	11層底 4/12
75	008-04	土師器	小皿	2-B	E27	S.B32	(1) 7.7	丸ノコナガ 内:ナガ	赤	にぶい濃焼	10087/3	11層底 4/12
76	022-06	土師器	小皿	2-B	F36	S.B37	(1) 8.0 (底) 4.8	丸ノコナガ 内:ナガ	赤	にぶい濃焼	10087/3	11層底 3/12
77	008-05	土師器	皿	2-B	E27	S.B32	(1)31.4	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ	赤	にぶい濃焼	10087/4	11層底 1/12
78	008-06	土師器	皿	2-B	E27	S.B32	(1)31.4	丸ノコナガ・オサユ 内:ナガ	赤	浅黄焼	10088/3	11層底 2/12
79	022-07	陶磁	山吹瓶	2-B	F27	S.B37	(1)16.3 (底) 4.9 (口) 4.4	丸ノコナガ・非切縁・短リ付高付 内:ヨコナガ+ナガ	赤	灰黄	2.106/2	11層底 4/12 台座 4/22
80	014-02	土師器	小皿	2-B	G26	S.K.40	(1) 2.4 (底) 1.0	丸ノコナガ 内:ナガ	赤	灰白	10089/2	11層底 6/12

第4表 第2次調査出土遺物観察表(2)

番号	実施年度	種・級	発掘方法	地区	プラン	遺跡-番号等	調査 (年)	調査・発掘の概要	出土	色 調	保存現	特記事項
83	01-05	土器類	小坑	2-B	F27	S K 80	(1) 13. 8. 2 (表) 4. 7	赤・ナガ・オヤム 内・ナガ	赤	浅黄緑	3088/4	11層部 2/12
82	03-02	土器類	竪	2-B	F26	S K 80	(1) 12. 0	赤・ナガ・オヤム 内・ナガ	赤	黄緑	2, 508/3	11層部 1/12
83	01-02	土器類	竪	2-B	F27	S K 80	(1) 12. 3 (表) 11. 15	赤・ナガ・オヤム 内・ナガ	赤	灰白	3088/2	11層部 2/12
84	01-04	土器類	竪	2-B	F27	S K 80	(1) 12. 0 (表) 3. 0	赤・ナガ・オヤム 内・ナガ	赤	浅黄緑	3088/4	11層部 1/12
85	01-04	土器類	竪	2-B	F27	S K 80	(1) 12. 0 (表) 1. 30	赤・ナガ・オヤム 内・ナガ	赤	浅黄緑	3088/3	11層部 1/12
86	01-03	土器類	竪	2-B	G26	S K 80	(1) 11. 3 (表) 2. 2	赤・ナガ・オヤム-ヨコナゲ 内・ナガ-ヨコナゲ	赤	灰黄	2, 507/3	11層部 1/12
87	01-03	土器類	竪	2-B	F27	S K 80	(1)	赤・ナガ・オヤム 内・ナガ	赤	浅黄緑	3088/3	11層部 2/12
88	01-06	土器類	竪	2-B	F27	S K 80	(1) 11. 0 (表) 2. 7	赤・ナガ・オヤム 内・ナガ	赤	浅黄緑	3088/3	11層部 1/12
89	00-04	土器類	竪	2-B	G26	S K 80	(1) 11. 3 (表) 3. 4	赤・ナガ・オヤム-ヨコナゲ 内・ナガ	赤	灰白	3088/2	11層部 2/12
90	03-03	土器類	竪	2-B	F27	S K 80	(1) 12. 0	赤・ナガ・オヤム 内・ナガ	赤	浅黄緑	3088/3	11層部 6/12
91	03-01	土器類	竪	2-B	F26	S K 80	(1) 12. 0 (表) 2. 20	赤・ナガ・オヤム 内・ナガ	赤	浅黄緑	3088/3	11層部 1/12
92	01-04	陶器	山家跡	2-B	G26	S K 80	(1) 11. 0	赤・ヨコナゲ 内・ヨコナゲ	赤	灰白	2, 507/3	11層部 1/12
93	01-05	陶器	山家跡	2-B	G26	S K 80	(1) 1. 6. 5	赤・ヨコナゲ・赤切取・磁り付け高台 内・ヨコナゲ	赤	灰白	3087/1	台座 3/12
94	01-06	陶器	山家跡	2-B	G26	S K 80	(1) 1. 3. 8	赤・ヨコナゲ・赤切取・磁り付け高台 内・ヨコナゲ	赤	灰白	307/1	台座 3/12
95	00-06	陶器	竪	2-B	F27	S K 80	小片	赤・ヨコナゲ-磁焼 内・ヨコナゲ-磁焼	赤	黄・オレンジ	3036/1	底部小片
96	01-02	陶器	竪	2-B	F27	S K 80	小片	赤・ヨコナゲ 内・ヨコナゲ	赤	灰	2, 506/1	小片
97	03-05	陶器	竪	2-B	F27	S K 80	(表) 01. 0	赤・ヨコナゲ-磁り付け高台 内・ヨコナゲ	赤	灰黄緑	2, 508/1	底部 2/12
98	03-03	土器類	竪	2-B	F26	S K 80	(1) 12. 0 (表) 02. 4	赤・ヨコナゲ-磁り付け高台 内・ヨコナゲ-オヤムナゲ	赤	浅黄緑	3088/3	11層部 1/12
99	03-06	土器類	竪	2-B	G27	S K 80	小片	赤・ヨコナゲ 内・ヨコナゲ	赤	浅黄緑	3088/4	小片
100	03-02	土器類	竪	2-B	F26	S K 80	(1) 12. 0	赤・ヨコナゲ 内・ヨコナゲ	赤	LS・白・黄緑	3087/2	11層部 1/12
101	03-04	土器類	竪	2-B	G27	S K 80	(1) 12. 0	赤・ヨコナゲ 内・ヨコナゲ	赤	浅黄緑	3088/3	11層部 1/12
102	02-04	土器類	竪	2-B	F27	S K 80	(1) 12. 4	赤・ヨコナゲ 内・ヨコナゲ	赤	LS・白・黄緑	3087/3	11層部 1/12
103	02-05	土器類	竪	2-B	F27	S K 80	(1) 12. 6	赤・ヨコナゲ 内・ヨコナゲ	赤	浅黄緑	3088/3	11層部 2/12
104	03-01	土器類	竪	2-B	F27	S K 80	(1) 12. 0	赤・ヨコナゲ 内・ヨコナゲ	赤	浅黄緑	3088/3	11層部 1/12
105	02-03	土器類	竪	2-B	F27	S K 80	(1) 12. 6	赤・ヨコナゲ 内・ヨコナゲ	赤	LS・白・黄緑	3087/2	11層部 1/12
106	02-05	土器類	竪	2-B	G27	S K 80	(1) 12. 0	赤・ヨコナゲ 内・オヤムナゲ-ヨコナゲ	赤	浅黄緑	3088/3	11層部 1/12
107	02-02	土器類	竪	2-B	F27	S K 80	(1) 12. 2	赤・ヨコナゲ 内・ヨコナゲ	赤	浅黄緑	3088/3	11層部 1/12
108	02-01	土器類	竪	2-B	F27	S K 80	(1) 12. 6	赤・ヨコナゲ 内・ヨコナゲ	赤	灰黄	2, 508/2	11層部 1/12
109	03-04	鉄製品	竪	2-B	G27	S K 80		-	-	-	-	-
110	03-01	陶器	山家跡	2-B	D30	S B 38	(1) 13. 4	赤・ヨコナゲ 内・ヨコナゲ	赤	灰白	2, 307/1	11層部 1/12
111	03-01	土器類	竪	2-B	G31	S B 38	(1) 13. 4	赤・オヤム 内・ナガ	赤	浅黄緑	2, 308/4	11層部 2/12
112	03-08	陶器	山家跡	2-B	F31	S B 39	(1) 13. 5 (表) 2. 7	赤・ヨコナゲ・赤切取・磁り付け高台 内・ヨコナゲ	赤	灰白	2, 307/1	11層部 4/12 台座 1/12
113	03-07	陶器	山家跡	2-B	F31	S B 39	(1) 1. 7. 3	赤・ヨコナゲ・赤切取・磁り付け高台 内・ヨコナゲ	赤	灰黄	2, 506/1	台座定存
114	03-02	陶器	山家跡	2-B	G32	S B 39	(1) 1. 7. 2	赤・ヨコナゲ・赤切取・磁り付け高台 内・ヨコナゲ	赤	灰黄	2, 506/1	台座 5/12
115	03-02	鉄製品	竪	2-B	E25	S B 41		-	-	-	-	-
116	00-06	土器類	竪	2-B	F29	S K 39	(1) 12. 0	赤・ナガ・オヤム-ヨコナゲ 内・ナガ-ヨコナゲ	赤	外・浅黄緑 内・浅黄緑	3085/3	11層部 1/12
117	00-07	土器類	竪	2-B	F29	S K 39	(1) 12. 0 (表) 1. 0	赤・ナガ・オヤム 内・ナガ	赤	灰白	2, 508/2	11層部 1/12
118	00-04	陶器	山家跡	2-B	F26	S K 39	(1) 1. 6. 0	赤・ヨコナゲ・赤切取・磁り付け高台 内・ヨコナゲ	赤	外・灰白 内・灰白	2, 307/1	台座定存
119	00-05	陶器	山家跡	2-B	F29	S K 39	(1) 1. 5. 7	赤・ヨコナゲ・赤切取・磁り付け高台 内・ヨコナゲ	赤	灰黄	206/1	台座 1/12
120	00-06	土器類	竪	2-B	F29	S K 39	(1) 12. 0	赤・ハルマーズ-ヨコナゲ 内・ナガ-ヨコナゲ	赤	LS・白・黄緑	3085/3	11層部 1/12

第5表 第2次調査出土遺物観察表(3)

番号	調査区	種・瓦	形制など	地区	プラン	遺跡-番号等	調査 (年)	調査・発掘の概要	出土	色 調	残存度	特記事項
121	013-03	土師器	皿	2-B	G26	S K 86	(1)13.0	丸ノコナゲ・オビユ 内ノコナゲ	赤	灰白	5008/2	11層部 5/12
122	013-02	陶器	山形鉢	2-B	G26	S K 86	(9) 6.5	丸ノコナゲ・金切痕・磁り付付高付 内ノコナゲ・コナゲ	中々赤	灰白	2,508/3	台座残存
123	013-05	土師器	皿	2-B	G26	S K 86	(1)20.0	丸ノコナゲ 内ノコナゲ	中々赤	浅黄褐色	5008/3	11層部 3/12
124	013-04	土師器	皿	2-B	G26	S K 86	(1)26.0	丸ノコナゲ 内ノコナゲ	中々赤	LS白・黄	2,502/4	11層部 1/12
125	021-05	土師器	小皿	2-B	F27	S K 83	(1) 7.3	丸ノコナゲ・オビユ 内ノコナゲ	赤	浅黄褐色 LS白・黄褐色	5008/3 5006/4	11層部 5/12
126	021-02	土師器	皿	2-B	F27	S K 83	(1)11.3 (表) 2.3	丸ノコナゲ・オビユ 内ノコナゲ	赤	浅黄褐色	5008/3	11層部 9/12
127	021-03	土師器	皿	2-B	F27	S K 83	(1)12.0 (表) 2.2	丸ノコナゲ・オビユ 内ノコナゲ	赤	灰白	5008/2	11層部 1/13
128	021-04	土師器	皿	2-B	F27	S K 83	(1)11.7 (表) 2.3	丸ノコナゲ・オビユ 内ノコナゲ	赤	LS白・黄褐色	5007/3	11層部 2/12
129	013-01	陶器	鉢	2-B	F27	S K 83	(9) 8.1	丸ノコナゲ・磁器・磁り付付1.高付 内ノコナゲ・磁器	赤	黄褐色 灰白 黄 黄褐色	56/0 5007/1	台座 4/12
130	014-01	土師器	深鉢	2-B	G26	S K 87	(1)27.2 (台座)32.2	丸ノコナゲ・磁り付付コナゲ 内ノコナゲ・磁器	赤	LS白・黄褐色	5007/3	11層部 1/13
131	030-03	土師器	皿	2-B	F29	S K 34	(1)33.0	丸ノコナゲ 内ノコナゲ	赤	LS白・黄褐色	5007/3	11層部 1/13
132	022-05	土師器	小皿	2-B	F36	p 1 + 2	(1) 2.7 (表) 1.35	丸ノコナゲ・オビユ 内ノコナゲ	赤	灰白	5008/2	11層部残存
133	022-06	土師器	皿	2-B	F27	p 1 + 4	(1) 8.8	丸ノコナゲ・オビユ 内ノコナゲ	赤	浅黄	2,317/3	11層部 3/12
134	019-05	土師器	小皿	2-B	E26	p 1 + 1	(1) 7.0 (表) 1.1	丸ノコナゲ 内ノコナゲ	赤	LS白・黄褐色	5007/4	11層部 3/12
135	019-06	陶器	山形鉢	2-B	E26	p 1 + 1	(表)7.0	丸ノコナゲ・金切痕・磁り付付高付 内ノコナゲ・コナゲ	赤	灰黄	2,516/2	底面 5/12
136	023-03	土師器	皿	2-B	F29	p 1 + 6	(1)21.4	丸ノコナゲ・オビユ 内ノコナゲ	赤	浅黄褐色	5008/3	11層部 2/12
137	020-05	土師器	小皿	2-B	F29	p 1 + 9	(1) 2.1 (表) 0.29	丸ノコナゲ 内ノコナゲ	赤	浅黄褐色	5008/3	11層部 3/12
138	022-06	土師器	小皿	2-B	F29	p 1 + 9	(1)18.0 (表)1.1	丸ノコナゲ・オビユ 内ノコナゲ	赤	暗灰黄	2,315/2	11層部 2/12
139	025-04	土師器	皿	2-B	F29	p 1 + 9	(1)11.4	丸ノコナゲ・オビユ 内ノコナゲ	赤	浅黄褐色	2,308/4	11層部 2/12
140	022-02	土師器	小皿	2-B	E30	p 1 + 4	(1) 7.6 (表) 1.3	丸ノコナゲ・オビユ 内ノコナゲ	赤	浅黄褐色	5008/3	11層部 4/12
141	013-04	土師器	皿	2-B	E26	p 1 + 9	(1)11.3 (表) 2.5	丸ノコナゲ・オビユ 内ノコナゲ	赤	浅黄褐色	5008/3	11層部 1/13
142	019-03	土師器	皿	2-B	E26	p 1 + 9	(1)11.0 (表) 1.8	丸ノコナゲ・オビユ 内ノコナゲ	赤	浅黄褐色	5008/3	11層部 3/12
143	021-01	陶器	山形鉢	2-B	E26	p 1 + 9	(9) 6.0	丸ノコナゲ・金切痕・磁り付付高付 内ノコナゲ・コナゲ	赤	灰白	2,317/1	台座 4/12
144	030-02	土師器	鉢	2-A	C17	p 1 + 1	(1)23.0	丸ノコナゲ・コナゲ 内ノコナゲ・コナゲ	赤	LS白・黄褐色	5007/3	11層部 2/12
145	023-02	土師器	鉢	2-B	F29	p 1 + 7	(1)21.0	丸ノコナゲ・コナゲ 内ノコナゲ・コナゲ	赤	LS白・黄	5006/3	11層部 6/12
146	013-02	土師器	皿	2-B	E26	p 1 + 9	(1)21.0	丸ノコナゲ・オビユ・コナゲ 内ノコナゲ・コナゲ	赤	灰黄褐色	5008/2	11層部 2/12
147	020-03	土師器	皿	2-B	E30	p 1 + 3	不明	丸ノコナゲ・オビユ・コナゲ 内ノコナゲ・コナゲ	赤	LS白・黄褐色	5007/3	小片
148	019-01	土師器	鉢	2-B	E26	p 1 + 1	(1)42.0	丸ノコナゲ・コナゲ 内ノコナゲ・コナゲ	赤	LS白・黄褐色 浅黄褐色	5006/3 5008/2	11層部 5/12
149	013-03	陶器	利	2-B	G29-30	LS白・黄	(1)36.0	丸ノコナゲ・磁器 内ノコナゲ・磁器	赤	黄褐色 灰白 黄 5/2/1 5/3/3/1	5007/3 5/3/3/1	11層部 3/12
150	019-01	陶器	利	2-A	C13	LS白・黄	(1)36.0	丸ノコナゲ・磁器 内ノコナゲ・磁器	赤	黄褐色 灰白 黄 5/2/1 5/3/3/1	5007/3 5/3/3/1	11層部 3/12
151	023-01	石皿	利	2-B	F26	LS白・黄	(9) 6.8	丸ノコナゲ 内ノコナゲ	赤	黄褐色 灰白 黄 5/2/1	56/0 2,317/1	台座 3/12
152	017-03	土師器	鉢	2-A	D13-14	LS白・黄	(1)27.6	丸ノコナゲ・コナゲ 内ノコナゲ・コナゲ	中々赤	灰白	5008/2	11層部 1/12
153	021-07	不整点	瓦類	2-B	E27	LS白・黄	(表) 4.0 (裏) 4.3	-	-	-	-	裏面3/6

第6表 第2次調査出土土遺物観察表(4)

番号	実施年度	実施番号	種・量	部類区分	用途	アゾド	濃縮・備考	法量 (t/m)	調整・抽出の形態	粘土	色 調	残存量	検定事項	
1	001-01	1	土曜	小皿	1-A	-	SK2	(01) 7.4 (調) 1.1	粘土 内1コナダ	黄	灰白	7,308/2	11検定 4/12	★1
2	002-01	2	土曜	小皿	1-A	-	SK2	(01) 8.4 (調) 1.0	粘土 内1コナダ	黄	灰白	7,308/2	11検定 7/12	★1
3	003-01	3	土曜	小皿	1-A	-	SK2	(01) 8.4 (調) 1.0	粘土 内1コナダ	黄	灰白	7,308/2	11検定 4/12	★1
4	004-01	4	土曜	小皿	1-A	-	SK2	(01) 8.9 (調) 1.4	粘土 内1コナダ	黄	灰白	3088/2	11検定 1/12	★1
5	005-01	5	土曜	小皿	1-A	-	SK2	(01) 7.8 (調) 1.3	粘土 内1コナダ	黄	灰白	7,308/2	11検定 7/12	★1
6	006-01	6	土曜	皿	1-A	-	SK2	(01) 11.2 (調) 2.2	粘土 内1コナダ	黄	灰白	7,308/2	11検定 3/12	★1
7	007-01	7	土曜	皿	1-A	-	SK2	(01) 11.4 (調) 2.3	粘土 内1コナダ	黄	黄褐色	7,308/2	11検定 5/12	★1
8	008-01	8	土曜	皿	1-A	-	SK2	(01) 12.4 (調) 2.4	粘土 内1コナダ	黄	黄褐色	7,308/2	11検定 7/12	★1
9	109-01	9	陶器	山系陶	1-A	-	SK2	(09) 7.3	粘土 内1コナダ	黄	灰白	3,307/1	底高 3/12	★1
10	010-01	10	陶器	山系陶	1-A	-	SK2	(09) 6.3	粘土 内1コナダ	黄	灰白	7,308/2	底高 4/12	★1
11	011-01	11	陶器	山系	1-A	-	SK2	(01) 8.8 (調) 2.0 (09) 1.4	粘土 内1コナダ	黄	灰白	396/1	底面定存	★1
12	012-01	12	陶器	山系陶	1-A	-	SK2	(01) 11.4 (調) 1.4 (09) 3.5	粘土 内1コナダ	黄	灰白	396/1	底面 4/12	★1
13	013-01	13	陶器	山系陶	1-A	-	SK2	(01) 14.2 (調) 1.2 (09) 3.7	粘土 内1コナダ	黄	灰白	396/1	底面定存	★1
14	014-01	14	陶器	山系陶	1-A	-	SK2	(01) 11.2	粘土 内1コナダ	黄	灰白	327/1	11検定 3/12	★1
15	015-01	15	青磁	陶	1-A	-	SK2	(01) 15.4 (調) 2.0	粘土 内1コナダ	黄	黄	327/1 396/4	11検定 1/12	★1
16	016-01	16	土曜	皿	1-A	-	SK2	(01) 25.0	粘土 内1コナダ	黄	灰白	7,308/2	11検定 1/12	★1
17	017-01	17	土曜	皿	1-A	-	SK2	(01) 25.0	粘土 内1コナダ	黄	黄褐色	7,308/2	11検定 1/12	★1
18	018-01	18	土曜	皿	1-A	-	SK2	(01) 25.0	粘土 内1コナダ	黄	灰白	7,308/2	11検定 2/12	★1
19	019-01	19	土曜	皿	1-A	-	SD4	(01) 25.0	粘土 内1コナダ	黄	黄褐色	3088/2	11検定 4/12	★1
20	020-01	20	土曜	皿	1-A	-	SD4	(01) 26.0	粘土 内1コナダ	黄	黄褐色	7,308/4	11検定 4/12	★1
21	021-01	21	土曜	小皿	1-D	E6	SK13	(01) 7.1 (調) 1.3	粘土 内1コナダ	黄	灰白	3088/3	11検定定存	★1 試片A
22	022-01	22	土曜	小皿	1-D	E6	SK13	(01) 13.9 (調) 1.3	粘土 内1コナダ	黄	灰白	3088/3	11検定 5/12	★1
23	023-01	23	土曜	小皿	1-D	E6	SK13	(01) 8.0 (調) 1.4	粘土 内1コナダ	黄	灰白	3087/3	11検定 5/12	★1
24	024-01	24	土曜	皿	1-D	E6	SK13	(01) 19.2 (調) 2.1	粘土 内1コナダ	黄	灰白	3088/2	11検定 1/12	★1
25	025-01	25	土曜	皿	1-A	-	SD4	(01) 16.0 (調) 2.2	粘土 内1コナダ	黄	灰白	7,308/3	11検定 1/12	★1
26	026-01	26	土曜	皿	1-D	G3	SK17	(01) 11.0 (調) 2.4	粘土 内1コナダ	黄	灰白	3088/2	11検定定存	★1
27	027-01	27	土曜	皿	1-C	-	SK20	(01) 10.8 (調) 2.4	粘土 内1コナダ	黄	黄褐色	3088/2	11検定 5/12	★1
28	028-01	28	土曜	山系陶	1-A	-	SD4	(01) 14.4 (調) 2.1 (09) 3.4	粘土 内1コナダ	黄	灰白	2,596/1	底面定存	★1
29	029-01	29	陶器	山系陶	1-A	-	SD4	(01) 14.8 (調) 2.4 (09) 3.4	粘土 内1コナダ	黄	灰白	2,397/1	底高 7/12	★1
30	030-01	30	陶器	山系陶	1-A	-	SD4	(01) 16.0 (調) 2.2 (09) 6.2	粘土 内1コナダ	黄	灰白	2,397/1	底面定存	★1
31	031-01	31	陶器	山系陶	1-D	E6	SK13	(01) 16.2 (調) 2.2 (09) 6.7	粘土 内1コナダ	黄	灰白	2,397/1	底面定存	★1
32	032-01	32	陶器	山系陶	1-D	E6	SK13	(01) 15.8 (調) 2.2 (09) 6.2	粘土 内1コナダ	黄	灰白	2,397/1	底面定存	★1
33	033-01	33	土曜	皿	1-A	-	SD4	(01) 26.8	粘土 内1コナダ	黄	灰白	3087/3	11検定 1/12	★1
34	034-01	34	土曜	皿	1-D	G3	SK17	(01) 11.2	粘土 内1コナダ	黄	灰白			★1
35	035-01	35	土曜	皿	1-C	-	SK20	-	粘土 内1コナダ	黄	灰白	3087/2	11検定 1/12	★1
36	036-01	36	土曜	皿	1-C	-	SK20	(01) 25.0	粘土 内1コナダ	黄	灰白	3087/3	11検定 3/12	★1
37	038-01	38	土曜	小皿	1-A	-	SK2	(01) 7.4 (調) 1.5	粘土 内1コナダ	黄	黄褐色	3088/3	11検定 3/12	★1
38	039-01	39	土曜	皿	1-A	-	SK2	(01) 11.2	粘土 内1コナダ	黄	黄褐色	3088/4	11検定 5/12	★1
39	040-01	40	陶器	山系陶	1-A	-	SD4	(01) 14.8 (調) 1.4 (09) 2.0	粘土 内1コナダ	黄	灰白	2,597/1	11検定 5/12 底面定存	★1
40	041-01	41	陶器	山系陶	1-A	-	SD4	(01) 15.4 (調) 2.0 (09) 2.4	粘土 内1コナダ	黄	灰白	2,597/2	11検定 1/12 底面定存	★1

第7表 第1次調査出土遺物観察表(1)

※1: 第1次調査の報告書掲載資料

番号	実施番号	種・量	採取方法	用途	アゾド	濃縮・濃縮率	塩量 (g)	調整・抽出の物質	船主	色	調	残存量	検定事項	
41	030-01	39	5	陶器	山系陶	1-A	-	SD 4	(0)15.4 (調) 3.5 (調) 6.7	高土ナマツチ・赤銅類(磁器付け高土)	中々密	灰	306/1	11800 2/12 自然発着
42	030-01	38	1	陶器	山系陶	1-A	-	SD 4	(0)15.6 (調) 3.5 (調) 7.2	高土ナマツチ・アズ(磁器付け高土)	中々密	灰黒	3107/2	11800 3/12 自然発着
43	030-01	38	4	土器類	小皿	1-B	-	SK 6	(0) 7.4 (調) 1.4	高土ナマツチ	密	黒	306/6	11800 5/12
44	030-01	38	5	土器類	小皿	1-B	-	SK 6	(0) 8.2 (調) 1.1	高土ナマツチ	中々密	黒	306/6	11800 4/12
45	030-01	38	6	土器類	小皿	1-B	-	SB 7	(0) 7.7 (調) 1.2	高土ナマツチ・オサム 内ナマツチ	密	灰黒	7.036/4	11800 2/12
46	030-01	38	7	土器類	小皿	1-B	-	SB 7	(0) 7.8 (調) 1.6	高土ナマツチ・オサム 内ナマツチ	密	灰黒	306/4	11800 4/12
47	030-01	38	4	土器類	小皿	1-B	-	SB 7	(0)7.7-7.8 (調) 1.43	高土ナマツチ・オサム 内ナマツチ	中々密	黒	306/6	1180010/12
48	030-01	39	1	陶器	山系陶	1-B	-	SB 7	(0)13.7 (調) 3.5 (調) 7.0	高土ナマツチ・赤銅類(磁器付け高土)	粗	灰白	3.038/2	11800 7/12 自然発着
49	030-01	39	2	陶器	山系陶	1-B	-	SB 7	(0)13.9 (調) 3.5 (調) 6.0	高土ナマツチ・赤銅類(磁器付け高土)	粗	灰白	3.077/1	11800 8/12 自然発着
50	040-01	40	1	土器類	皿	1-B	-	SB 7	(0)10.0	高土ナマツチ・ヨコナガ 内ナマツチ・ヨコナガ	中々密	江戸・灰黒	10087/2	11800 2/12
51	040-01	40	2	土器類	皿	1-B	-	SB 9	(0)22.2	高土ナマツチ・ヨコナガ 内ナマツチ・ヨコナガ	中々密	灰黒	10086/4	11800 1/12
52	040-01	40	3	土器類	皿	1-B	-	SD 8	小片	高土ナマツチ 内ナマツチ	中々密	江戸・灰黒	10087/4	小片
53	040-01	41	6	陶器	山系陶	1-B	-	SD 8	(0) 7.3	高土ナマツチ・アズ(磁器付け高土)	中々密	灰白	36/0	自然発着
54	040-01	42	5	陶器	山系陶	1-B	-	SD 8	(0) 7.7	高土ナマツチ・赤銅類(磁器付け高土)	中々密	灰白	36/0	自然発着
55	040-01	41	5	陶器	山系陶	1-B	-	SD 8	(0) 7.8-8.0	高土ナマツチ・工黒類(磁器付け高土)	中々密	灰白	32/0	自然発着
56	040-01	42	4	陶器	山系陶	1-B	-	SD 8	(0) 6.8	高土ナマツチ・赤銅類(磁器付け高土)	中々密	灰白	2.038/2	自然発着
57	040-01	42	1	陶器	壺	1-B	-	SD 8	(0)14.2 (調) 4.0	高土ナマツチ・ヨコナガ・アズ(磁器付け高土)	密	濃緑(灰白) 黒(アズ)	2.3077/1	11800 3/12 三天(二足焼)
58	040-01	44	2	土器類	小皿	1-B	E 6	SK11	(0) 7.0 (調) 1.2	高土ナマツチ・オサム 内ナマツチ	密	灰黒(濃) 作(濃)	10088/3 10087/3	11800 3/12
59	040-01	44	1	土器類	小皿	1-B	E 6	SK11	(0) 8.0 (調) 0.8	高土ナマツチ・オサム 内ナマツチ	密	灰黒	10088/2	11800 4/12
60	040-01	43	2	土器類	小皿	1-B	E 6	SK11	(0) 8.0 (調) 1.2	高土ナマツチ・オサム・ヨコナガ 内ナマツチ	密	灰白	10088/2	11800 4/12
61	040-01	43	3	土器類	小皿	1-B	E 6	SK11	(0) 9.0 (調) 1.1	高土ナマツチ・オサム 内ナマツチ	密	江戸・灰黒	10088/3	11800 5/12
62	040-01	43	7	土器類	皿	1-B	E 6	SK11	(0)11.0 (調) 2.0	高土ナマツチ・オサム・ヨコナガ 内ナマツチ・ヨコナガ	中々密	灰黒	10088/3	11800 3/12
63	040-01	43	6	土器類	皿	1-B	E 6	SK11	(0)11.8 (調) 2.0	高土ナマツチ・オサム・ヨコナガ 内ナマツチ・ヨコナガ	中々密	灰黒	10088/2	11800 3/12
64	040-01	46	8	陶器	山系陶	1-B	E 6	SK11	(0) 7.1	高土ナマツチ・アズ(磁器付け高土)	中々密	濃緑(灰白) 黒(灰)	3.038/2 306/2	自然発着
65	040-01	43	1	土器類	皿	1-B	E 6	SK11	(0)23.0	高土ナマツチ・オサム・ヨコナガ 内ナマツチ・オサム・ヨコナガ	中々密	江戸・灰黒	10086/3	11800 2/12
66	040-01	47	1	土器類	皿	1-B	E 6	SK11	(0)28.0	高土ナマツチ 内ナマツチ	密	灰黒	10088/1 10088/4	11800 1/12
67	050-01	52	4	石製品	硯石	1-B	E 6	SK11	(調) 4.0 (調) 2.2	-	-	-	-	重31.6g
68	040-01	45	5	土器類	小皿	1-D	C 6	SB11	(0) 8.0	高土ナマツチ・オサム 内ナマツチ	密	灰黒	10088/3	11800 2/12
69	040-01	45	6	土器類	皿	1-D	C 6	SB11	(0)10.0	高土ナマツチ・オサム 内ナマツチ	密	江戸・灰黒	2.0387/4	11800 4/12
70	040-01	45	4	土器類	小皿	1-D	C 4	SB10	(0) 8.0 (調) 0.8	高土ナマツチ・オサム 内ナマツチ	密	江戸・灰黒	7.0087/4	11800発着
71	040-01	45	3	土器類	皿	1-D	C 3	SB10	小片	高土ナマツチ・ヨコナガ 内ナマツチ	中々密	灰黒	10088/1 10088/3	小片
72	040-01	45	2	陶器	山系陶	1-D	C 3	SB10	(0) 7.0	高土ナマツチ・赤銅類(磁器付け高土)	中々密	灰白	2.0377/1	自然発着
73	040-01	45	1	陶器	山系陶	1-D	C 4	SB10	(0)13.5 (調) 4.0 (調) 8.1	高土ナマツチ・赤銅類(磁器付け高土)	中々密	灰白	027/1	11800 1/12 自然発着
74	040-01	44	7	土器類	小皿	1-D	F 2	SB10	(0) 8.0 (調) 0.8	高土ナマツチ・オサム 内ナマツチ	密	江戸・灰黒	10087/3	11800 3/12
75	040-01	44	8	土器類	皿	1-D	F 3	SB10	(0)10.2	高土ナマツチ 内ナマツチ	密	灰白	10088/2	11800 3/12
76	040-01	44	9	土器類	皿	1-D	D 2	SB10	(0)10.0	高土ナマツチ 内ナマツチ	密	灰白(濃) 作(濃)	10087/2 10086/3	11800 3/12
77	040-01	44	10	土器類	皿	1-D	D 1	SB10	(0)13.0	高土ナマツチ・オサム 内ナマツチ	密	灰黒	10088/3	11800 3/12
78	050-01	51	7	土器類	皿	1-C	-	SK20	(0)11.0 (調) 2.0	高土ナマツチ 内ナマツチ	密	灰黒	10088/3	11800 3/12
79	040-01	46	4	土器類	小皿	1-D	C 5	SK14	(0) 8.0 (調) 1.1	高土ナマツチ 内ナマツチ	密	灰黒	10088/3	11800発着
80	040-01	46	5	土器類	皿	1-D	C 5	SK14	(0)11.4	高土ナマツチ・オサム 内ナマツチ	密	灰黒	2.038/2 10088/2	11800 3/12

第 8 表 第 1 次調査出土遺物観察表 (2)

番号	調査年度	調査番号	種・質	器種/分	用区	アソビ	器種・素材等	遺量 (g)	調査・保存の形態	出土	色 調	保存状況	備記事項
81	04-06	47 3	布類	絹	1-D	C.5	S.K14	(0) 3.4	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	藍色・灰緑 黒・紺・アサギ	2,395/2 2,077/1	全面劣化
82	04-07	47 3	陶器	鉢	1-D	C.5	S.K14	(0)18.6	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	藍色・青 黒・紺・アサギ	2,025/5 2,023/1	11箇所劣化
83	04-07	46 7	土器類	小皿	1-B	G.3	S.E36	(0) 8.6	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	黒	2,332/6	11箇所劣化
84	04-07	47 3	土器類	酒罎	1-B	G.3	S.E36	小片	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	外・浅黄 内・浅黄	1098/4	小片
85	04-07	47 7	土器類	罎	1-B	G.3	S.E36	(0)26.8	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	藍色・灰白 黒・浅黄	1071/1 1072/3	11箇所劣化
86	04-04	47 4	陶器	おし鉢	1-B	G.3	S.E36	小片	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	灰白	2,307/1	小片
87	04-07	46 2	土器類	皿	1-B	G.3	S.K17	(0)11.2 (0) 2.7	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	青黒	1096/3	11箇所劣化
88	02-01	51 1	土器類	皿	1-B	F.3	S.K17	(0)11.2 11.8 (0) 2.7 (0) 2.8	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	灰白 内・白・黄	1096/2 1096/3	11箇所劣化
89	04-03	46 3	土器類	皿	1-B	F.3	S.K17	(0)11.3 (0) 2.7	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	外・灰白 内・浅黄	2,338/2 1096/3	11箇所劣化
90	02-01	51 2	土器類	皿	1-B	F.3	S.K17	(0)11.2 (0) 2.8	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	青黒	1098/3	11箇所劣化
91	04-01	46 1	土器類	皿	1-B	F.3	S.K17	(0)11.4	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	外・灰白 内・浅黄	2,308/2 1096/3	11箇所劣化
92	04-04	46 4	土器類	皿	1-B	F.3	S.K17	(0)11.3 (0) 2.7	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	外・灰白 内・浅黄	1098/2 2,323/3	11箇所劣化
93	04-06	47 6	土器類	酒罎	1-B	F.3	S.K17	小片	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	内・白・黄	1097/4	小片
94	04-03	46 3	土器類	罎	1-B	F.3	S.K17	(0)19.2	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	中・中絹	青黒	1098/4	11箇所劣化
95	04-02	46 2	土器類	罎	1-B	F.3	S.K17	(0)20.8	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	内・白・黄	1097/4	11箇所劣化
96	04-02	46 1	土器類	罎	1-B	F.3	S.K17	(0)22.4	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	中・中絹	内・白・黄	1097/4	11箇所劣化
97	01-06	51 6	土器類	小皿	1-D	D.6	龜石	(0) 2.7 (0) 2.7	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	内・白・黄	1097/2	11箇所劣化
98	02-03	53 5	土器類	小皿	1-B	D.6	龜石	(0) 2.7 (0) 2.2	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	青黒	2,326/4	11箇所劣化
99	01-07	51 7	土器類	皿	1-D	D.6	龜石	(0)11.6	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	青黒	1098/3	11箇所劣化
100	03-04	50 1	土器類	罎	1-D	D.6	龜石	小片	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	青黒	1098/3	小片
101	04-03	46 3	陶器	山菜鉢	1-D	D.6	龜石	(0) 8.4	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	灰黒	1098/2	全面劣化
102	04-02	50 2	布類	絹	1-D	D.6	龜石	(0)13.4	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	黒・灰白	1097/1	11箇所劣化
103	04-01	50 1	布類	絹	1-D	D.6	龜石	(0)16.4	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	藍色・灰白 黒・アサギ	絹 2,306/1	11箇所劣化
104	04-03	50 3	布類	絹	1-D	D.6	龜石	小片	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	黒・灰白 アサギ	1015/2	小片
105	04-01	49 1	陶器	罎鉢	1-D	E.5	龜石	(0)32.0	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	内・白・黄	2,305/3	11箇所劣化
106	02-03	52 3	石製品	酒打	1-B	-	包合層	(0) 2.1 (0) 1.6	-	-	-	-	重量 6.64g
107	02-03	52 3	土器類	罎	1-B	B.1	包合層	小片	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	内・白・黄	2,3087/4	小片
108	04-06	46 6	包合層	罎	1-B	-	包合層	(0)15.3	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	中・中絹	灰白	42/0	全面劣化
109	04-05	46 5	包合層	罎	1-B	-	包合層	(0)19.0	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	中・中絹	灰白	42/0	全面劣化
110	04-04	41 4	陶器	山菜鉢	1-B	-	包合層	(0) 6.4・7.0	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	中・中絹	灰白	42/0	全面劣化
111	02-04	51 8	陶器	山菜鉢	1-B	-	包合層	(0) 8.0	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	灰黒	2,327/2	全面劣化
112	02-02	52 2	布類	絹	1-D	B.1	包合層	小片	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	黒・灰白	106/2	小片
113	04-03	47 3	布類	絹	1-B	-	包合層	(0) 3.0	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	藍色・灰白 黒・灰	42/0 2,306/1	全面劣化
114	04-04	42 1	陶器	罎	1-B	-	包合層	(0) 7.4	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	藍色・灰黄 黒・浅黄	2,327/2 106/3	全面劣化
115	03-02	50 2	陶器	碗	1-A	-	包合層	(0)13.2 (0) 2.4 (0) 2.7	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	灰白	107/2	11箇所劣化
116	04-02	47 2	布類	袋	1-B	-	包合層	(0)11.4 (0) 4.4 (0) 4.8	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	絹	藍色・灰白 黒・灰	42/0 106/1	11箇所劣化
117	04-03	41 3	陶器	罎鉢	1-B	-	包合層	(0)27.8	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	中・中絹	黒	2,306/6	11箇所劣化
118	04-02	41 2	陶器	罎鉢	1-B	-	包合層	(0)27.8	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	中・中絹	内・白・黄	2,305/3	11箇所劣化
119	04-03	41 3	陶器	罎鉢	1-B	-	包合層	(0)27.13.0	糸ノコケテグー一編織 内ノコケテグー一編織	中・中絹	灰白	42/0	全面劣化

第9表 第1次調査出土遺物観察表(3)

第5章 調査のまとめ

調査の結果、中新田遺跡は13世紀後半と14世紀中葉～後半を中心とした遺跡であることが確認され

た。以下、遺構及び遺物の検討を通じ、中新田遺跡の性格や位置づけを考えたい。

第1節 中新田遺跡出土の土器について

中新田遺跡の調査で出土した遺物は第1次調査及び第2次調査分をあわせて重量60kgとあまり多くないが、土器組成を調べるために器種カウントを行った。カウントの手法は、岩出遺跡群などで行われている、径を12分割してその残存度を調べる手法¹⁾を用いた。

カウントの結果、全体数で見ると土師器76.22%、陶器22.01%、磁器1.77%となり、ほぼ同じ時期の岩出遺跡群第8次調査²⁾の土師器78.13%、陶器20.84%、磁器1.02%と大きく変わらぬ数値が確認できた。中新田遺跡の遺構は、1-A地区では13世紀後半を中心とした遺構が確認されているが、その他の地区では14世紀中葉～後半の遺構がほとんどである。14世紀中葉～後半の遺構からは、山茶碗にかわる平碗などの陶器がほとんど見られず、土師器が

多数を占める。この時期の遺構からは13世紀後半に位置づけられる山茶碗が少量出土している場合が多く、混入もしくは長期間使用の可能性が考えられる。

出土遺物が特徴的な遺構に、2-A地区のS K37がある。この遺構は、S B56の南東隅土坑で、南伊勢系の土師器鍋の編年から14世紀後半に位置づけている。この遺構からは、古瀬戸産の三耳壺、常滑産の三均壺・水瓶もしくは片口瓶が出土している。他の遺構からは、陶器の壺類はほとんど出土しておらず、この遺構の特殊性を物語っている。

また、1-A地区の13世紀後半の遺構であるS D4では、土師器12.83%、陶器（すべて山茶碗）87.17%である。同時期の遺構と比較しても山茶碗の比率が高く、遺構の性格に興味を持たれる。

<全体>						<S K37>							
質類	器種	採用部位	カウント 点数	個体 換算数	比率(%)		質類	器種	採用部位	カウント 点数	個体 換算数	比率(%)	
					個別	質類別						個別	質類別
土師器	鍋(南伊勢系)	口縁	279	23.25	7.84	76.22	鍋(南伊勢系)	口縁	6	0.5	4.41	80.88	
	羽釜(南伊勢系)	口縁	12	1.00	0.34		羽釜(南伊勢系)	口縁		0.00	0.00		
	皿(南伊勢系)	口縁	1,055	87.92	29.66		皿(南伊勢系)	口縁	43	3.58	31.62		
	小皿(南伊勢系)	口縁	1,365	113.75	38.38		小皿(南伊勢系)	口縁	61	5.08	44.85		
陶器	山茶碗	底部	713	59.42	20.04	22.01	山茶碗	底部		0.00	0.00	19.12	
	山皿	底部	12	1.00	0.34		山皿	底部		0.00	0.00		
	練鉢	底部	24	2.00	0.67		練鉢	底部	4	0.33	2.94		
	平碗(瀬戸産)	底部	4	0.33	0.11		平碗(瀬戸産)	底部		0.00	0.00		
	壺(瀬戸産)	口縁	12	1.00	0.34		壺(瀬戸産)	口縁	12	1.00	8.82		
	その他(瀬戸産)	口縁	4	0.33	0.11		その他(瀬戸産)	口縁		0.00	0.00		
	壺(常滑産)	口縁		0.00	0.00		壺(常滑産)	口縁		0.00	0.00		
	壺(常滑産)	口縁	6	0.50	0.17		壺(常滑産)	口縁	6	0.50	4.41		
	練鉢(常滑産)	底部	4	0.33	0.11		練鉢(常滑産)	底部		0.00	0.00		
	壺(瀬美産)	底部		0.00	0.00		壺(瀬美産)	底部		0.00	0.00		
壺(瀬美産)	底部	4	0.33	0.11	壺(瀬美産)	底部	4	0.33	2.94				
磁器	青磁・碗	底部	49	4.08	1.38	1.77	青磁・碗	底部		0.00	0.00	0.00	
	白磁・碗	底部	9	0.75	0.25		白磁・碗	底部		0.00	0.00		
	染め付け・碗	口縁	5	0.42	0.14		染め付け・碗	口縁		0.00	0.00		
	計		3,557	296	100.00		計		136	11	100.00		100.00

第10表 遺物カウント表

地区	遺構名	時期	土師器				合計	陶器					合計	磁器			合計	比率 (%)		
			納	羽	皿	小皿		比率 (%)	山形碗	山皿	縁鉢	その他		合計	比率 (%)	青磁焼			白磁焼	黒土付焼
			口縁	口縁	口縁	口縁														
1次	SK 2	14世紀中葉	3		120	239	422	51.34	25	12				27	8.06			0	0.00	459
1次	SD 3	中世	5				5	10.00	45					45	90.00			0	0.00	50
1次	SD 4	13世紀後半	16		2	5	29	12.83	197				197	87.17			0	0.00	226	
1次	SD 5	中世					0	0.00	9		5		14	100.00			0	0.00	14	
1次	SK 6	中世			18	18	100.00	0					0	0.00			0	0.00	18	
1次	SB 7	13世紀前半	10		53	83	87.50	9					9	12.50			0	0.00	72	
1次	SD 8	13世紀代	1		12		13	28.26	31			2	33	71.74			0	0.00	46	
1次	SB 9	13世紀前半	4				4	100.00	0				0	0.00			0	0.00	4	
1次	SB 11	中世			4	2	6	100.00	0				0	0.00			0	0.00	6	
1次	SK 12	13世紀後半	8		59	89	156	86.19	25				25	13.81			0	0.00	181	
1次	SK 14	中世	1		22	29	52	68.42	0				0	0.00	24		24	31.58	76	
1次	SE 16	中世	2		1	15	18	54.74	0		1		1	5.26			0	0.00	19	
1次	SK 17	14世紀中葉	42	1	143	6	192	100.00	0				0	0.00			0	0.00	192	
1次	SB 18	14世紀後半					12	12	75.00	4			4	25.00			0	0.00	16	
1次	SB 19	中世			8	3	11	100.00	0				0	0.00			0	0.00	11	
1次	SK 20	中世	4		24	5	33	100.00	0				0	0.00			0	0.00	33	
1次	薬石	14世紀後半	11	2	48	88	149	86.63	18		5		23	13.37			0	0.00	172	
1次	包含層	—	15	1	20	83	119	34.59	191		6	8	205	59.59	12	3	5	30	5.81	344
1次	その他	—	23	1	94	147	285	53.57	16		1		17	6.03			0	0.00	292	
2次	SK17上層	—	14	1	56	133	244	94.21	4		2		6	2.32	9		9	3.47	259	
2次	SK 37	14世紀後半	6		43	61	110	80.88	0		4	22	26	19.12			0	0.00	136	
2次	SK 38	14世紀中葉	8		65	83	136	92.52	11				11	7.48			0	0.00	147	
2次	SK 39	15世紀前半	5		6	5	16	48.48	17				17	51.52			0	0.00	33	
2次	SK 40	14世紀中葉～後半	35	4	98	70	207	93.24	13		2		15	6.76			0	0.00	222	
2次	SK 41	中世	1		1	3	5	100.00	0				0	0.00			0	0.00	5	
2次	SK 43	14世紀代			38	15	53	92.98	0				0	0.00	4		4	7.02	57	
2次	SK 44	中世			4	4	8	100.00	0				0	0.00			0	0.00	8	
2次	SK 45	14世紀後半	5		56	23	84	100.00	0				0	0.00			0	0.00	84	
2次	SK 46	14世紀中葉～後半	2		1		3	20.00	12				12	80.00			0	0.00	15	
2次	SK 47	14世紀後半		1	1	1	3	75.00	1				1	25.00			0	0.00	4	
2次	SD 49	中世	1		1		2	100.00	0				0	0.00			0	0.00	2	
2次	SD 50	14世紀後半	4		22	1	27	100.00	0				0	0.00			0	0.00	27	
2次	SK 54	14世紀前半	4		1		5	71.43	2				2	28.57			0	0.00	7	
2次	SB 56	14世紀後半				1	1	100.00	0				0	0.00			0	0.00	1	
2次	SB 57	14世紀中葉～後半	2		18	30	50	100.00	0				0	0.00			0	0.00	50	
2次	SB 59	13世紀後半	2		5		7	15.22	39				39	84.78			0	0.00	46	
2次	SB 60	中世	1		1		2	100.00	0				0	0.00			0	0.00	2	
2次	包含層	中世	6		12	37	55	67.07	24				24	29.27		3	3	3.66	82	
2次	p i t	中世	36	1	29	60	126	84.56	20				20	13.42		3	3	2.01	149	
	合計		279	12	1,055	1,365	2,711		713	12	24	34	783		49	9	5	63	3,557	

第11表 遺物カウント表（個別データ）

第2節 南東隅に土坑をもつ建物について

中新田遺跡で確認された掘立柱建物のS B55・56・57からは、それぞれ南東隅土坑S K38・37・40が確認されている。掘立柱建物の南東隅土坑については、既述や台所説などが議論されている^①。

中新田遺跡の南東隅土坑は、掘形下端の周囲及び床面に直径5cmほどの小穴列が確認されている。このような遺構は、中新田遺跡の600m程北側に位置する中ノ垣外遺跡でも確認されている。中ノ垣外遺跡では南東隅土坑が8基確認されているが、そのうちのS K10・21には、掘形に沿った石積みが確認され、S K21では内側に径10cmほどの小穴列が確認されている。報告書では、「石組みが崩れるのを防ぐために板囲いをした」可能性が示唆されている^②。

中新田遺跡のS K38・37は、石の廃棄状況から、後出であるS K37の周囲に石が積まれ、それを支えるための板囲いなどが施されていたと考えることが

できる。土坑からは鉄釘も確認されており、それを裏付けている。S K37と重複していないS K38の北辺にも小穴があり、ここにも同様の囲いが施されていた可能性がある。S K40からは、石が確認されず、小穴列のみが確認されている。ここからも鉄釘が出土しており、木の囲いが施されていたと考えることができよう。北辺から50cm離れた場所では2列に並んだ状態で小穴が確認されており、仕切り板などが入れられていた可能性がある。

これらの南東隅土坑をもつ建物の規模は4間×4間～5間×5間で、中新田遺跡では主屋に相当する建物である。これらの建物の西半や北半には、柱穴の確認されなかった場所が見られる。民俗例から、建物の西側には板の間などの土間以外の空間が占めている場合が多い^③。南東隅土坑や柱配列は、事例を重ねることによって部屋割などを考える資料となろう。

第3節 中新田遺跡の位置づけ

中新田遺跡の2回にわたる調査では、13世紀前半から14世紀後半にかけての遺構が確認された。

13世紀前半の遺構には1-A地区のS B7・S B9がある。また、S D8は時期幅があるが、この時期にあったと考えられる。

13世紀後半に位置づけられる遺構は1-A地区のS D4、1-D地区のS K13である。S D3～5・8は、ほ場整備前の農道と類似した方向を示す。それぞれの溝の間は約5mである。この農道に関しては、地元で「旧道」と呼ばれ、現在の伊勢南島線もとの道であると伝えられている。明治時代の地図(第19図)では伊勢南島線の位置は変わっていない。農道についてはこの地図では確認できないが、S D

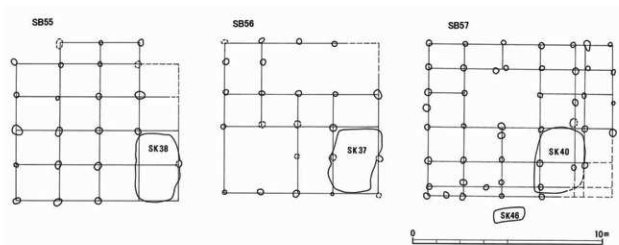
- [註]
- ① 木本勝己「岩出遺跡群(第5.7.8次)発掘調査報告」2006.3 三重県埋蔵文化財センター
 - ② ①と同じ。
 - ③ 浅尾悟「土坑を伴う中世掘立柱建物について」『一般国道1号線亀山バイパス埋蔵文化財発掘調査概要VI』

3～5・8の存在から、この農道もしくはそれに先立つ区画がこの時期にさかのぼる可能性も考えられる。

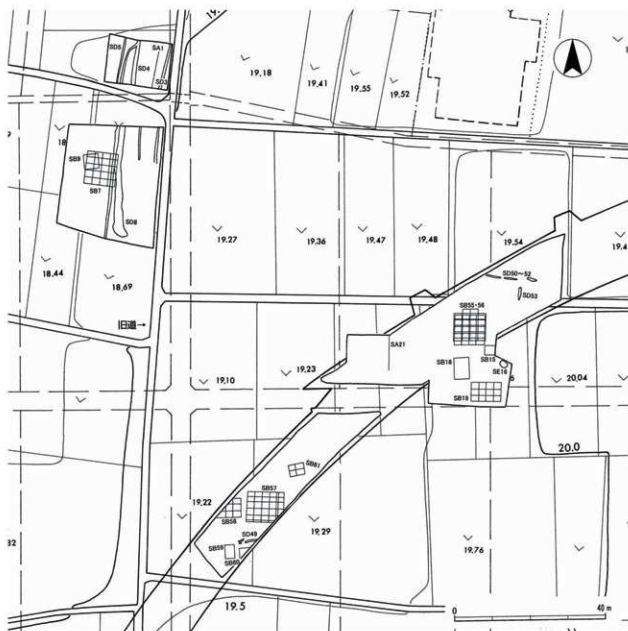
14世紀中葉から後半には、2-A、2-B地区で周囲に溝を持った屋敷地が確認できる。それぞれ、S B55～S B56、S B57といった南東隅土坑をもつ掘立柱建物を主屋とし、副屋と区画溝を持つ。2-A地区には井戸もある。S B56の南東隅土坑であるS K37からは古瀬戸三耳壺などの出土地が限られる遺物も出土している。

調査区に限られているために周辺の状況が確認できないが、これらの状況から、中新田遺跡には富裕層が居住していたと考えることができよう。

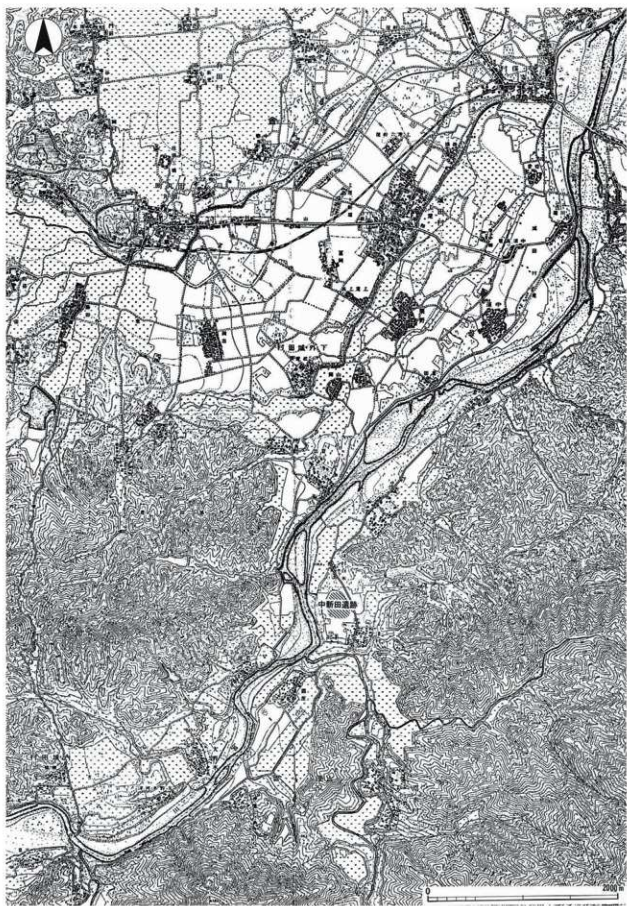
- 1990.3 三重県埋蔵文化財センター
- ④ 岩中淳次「伊勢市佐八町 中ノ垣外遺跡」『昭和58年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』
- 1984.3 三重県教育委員会
- ⑤ ③と同じ。



第17図 南東隅土坑をもつ掘立柱遺物模式図（1：200）



第18図 中新田遺跡の遺構配置図（1：1,000）



第19図 明治時代の地図(1:40,000)(大日本帝国陸地測量部 1:20,000「田丸町」「沼木村」明治27-31年より作成)

写 真 图 版



调查区全景

図版 2



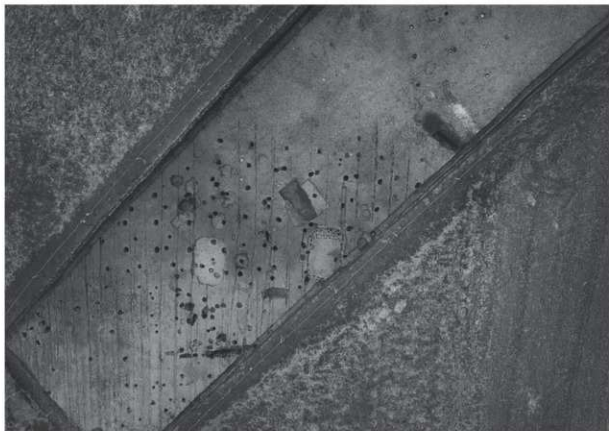
A地区全景（北東から）



B地区全景（南西から）

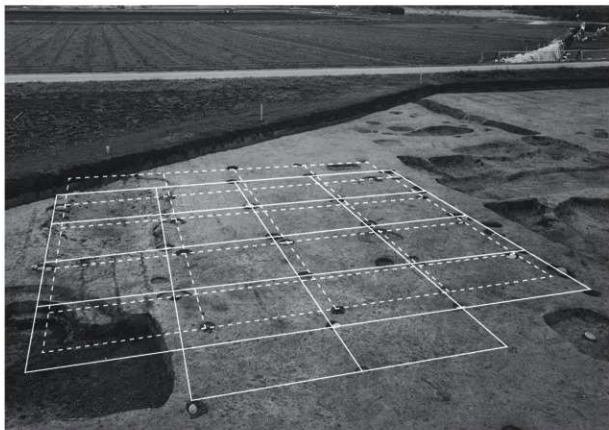


A地区中心部

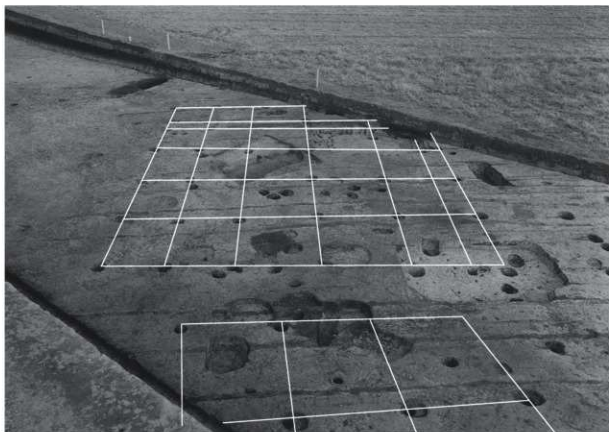


B地区中心部

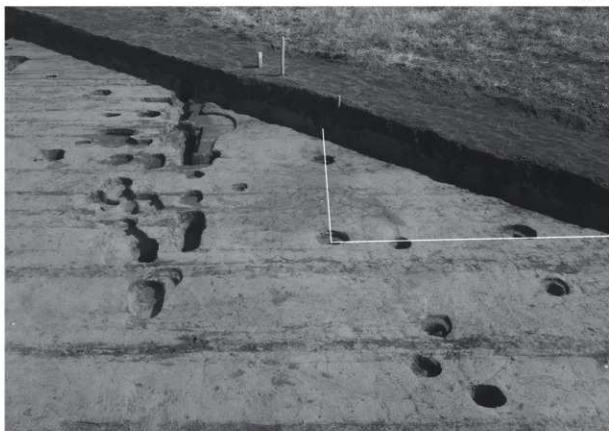
図版 4



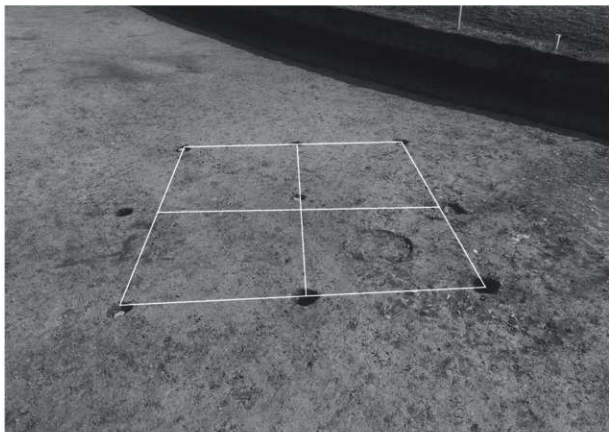
SB55・56 (北から)



SB57・58 (西から)



SB60・SD49、SB61 (西から)



SB61 (西から)

図版 6



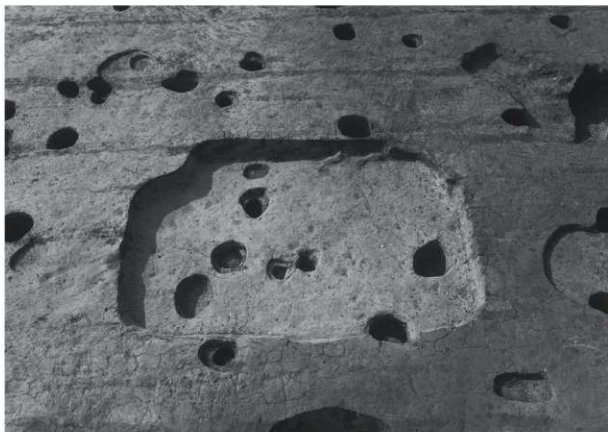
S K37・38集石除去前（西から）



S K37・38完掘後（北西から）

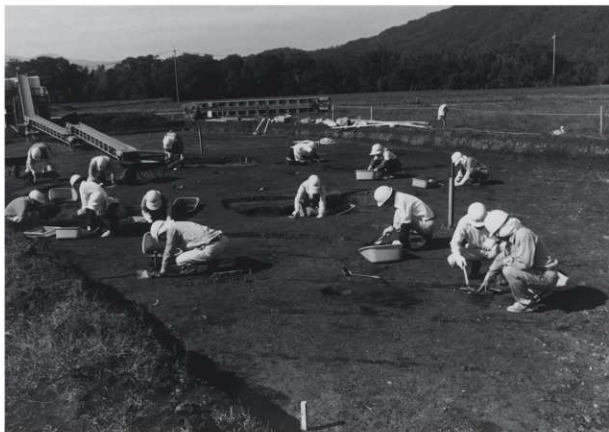


SK40 (南から)



SK39 (東から)

図版 8



作業風景



現地説明会風景

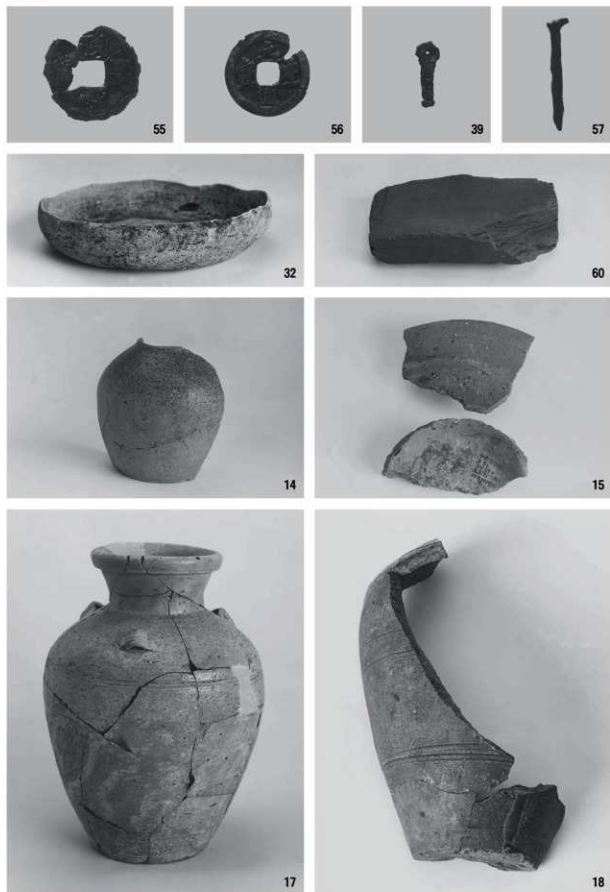


調査前風景

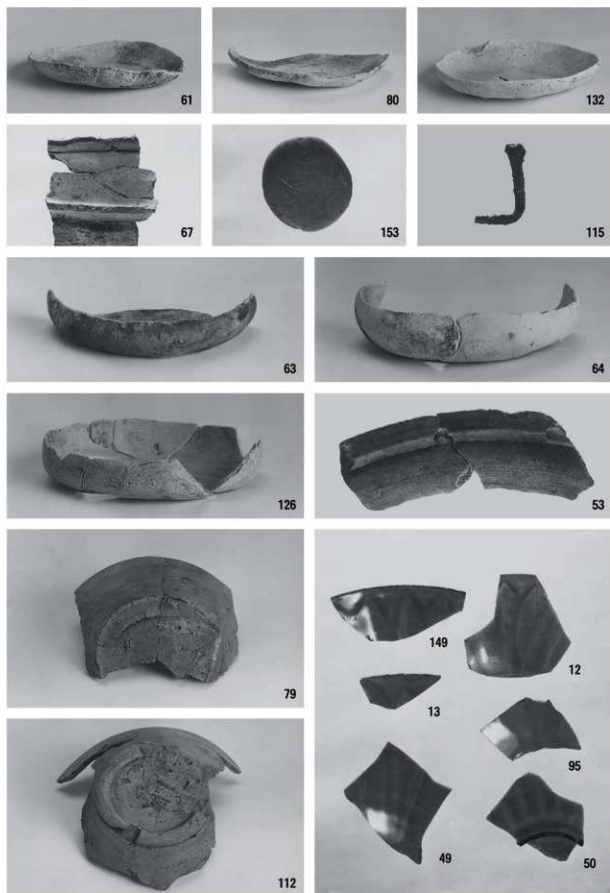


工事中風景

図版10

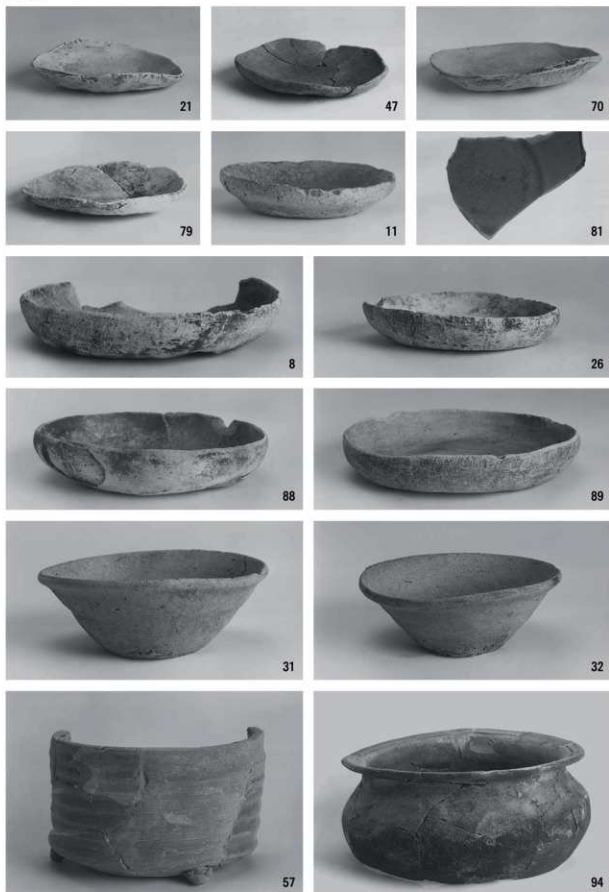


第2次調査出土遺物(1) SK37, SK38, SK37・38の上層



第2次調査出土遺物(2)

図版12



第1次調査出土遺物

報告書抄録

ふりがな	なかしんでんいせき(だい2じ)はつつちょうさほうこく							
書名	中新田遺跡(第2次)発掘調査報告							
副書名	—三重県伊勢市津村町所在—							
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	285							
編著者名	西村美幸							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 Tel. 0596(52)1732							
発行年月日	西暦2007年3月23日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中新田遺跡	伊勢市津村町	24203	240	34度 27分 14秒	136度 39分 20秒	20050920 ～ 20051109	1,381㎡	主要地方道伊勢南 島線道路改築事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
中新田遺跡	集落跡	鎌倉・室町	掘立柱建物、土坑、溝	土師器・陶器 (29.9 kg)		鎌倉時代後期から 室町時代前半の屋敷地		
要約	<p>中新田遺跡は、富川中流右岸の中段段丘上に立地する遺跡である。調査の結果、鎌倉時代後期から室町時代前半(13世紀後半～14世紀後半)の集落を確認した。集落には、溝で区切られ2つの屋敷地がある。屋敷地の1つでは、主屋にあたる掘立柱建物に伴う土坑から、古瀬戸産の三耳壺、常滑産の三均壺、古銭などが出土している。区画を持つ屋敷地や遺物の状況から、富裕層が住んでいた可能性が考えられる。</p>							

三重県埋蔵文化財調査報告285

中新田遺跡(第2次)発掘調査報告

—三重県伊勢市津村町所在—

2007(平成19)年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印刷 光出版印刷株式会社